

玉掛用具を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
2021	1	10 ～ 12	建設現場に建築資材を搬入中、移動式クレーン（2.6トン）で資材（木材約500kg）を移動していたところ、玉掛用繊維ロープから木材がはずれて、つり荷の近くで移動式クレーンを操作（無線式）していた被災者の上に落下し、下敷きとなり死亡した。	40301	4	30～ 49
2021	1	8 ～ 10	木造住宅新築工事現場において、被災者が単独で現場に搬入した建築資材（小屋束の束、重量：調査中）を積載型トラッククレーン（つり上げ荷重；2.93t、無線操作式）を用いて移動中、つり荷（小屋束の束）のバランスが崩れ、2m超の位置から落下し、その下敷きになった。	40301	4	10～ 29
2021	3	10 ～ 12	クライミングクレーンで荷（鉄筋馬を束ねたもの）を吊り上げていたところ、荷崩れし地上にいた作業員に接触したもの。	30201	4	1～9
2021	6	14 ～ 16	6階建て研究新棟新築において、電気工事2次下請が、屋上設置の定格荷重1tの低床ジブクレーンで、4tトラックから、パレット積みバスダクト、168kgと345kgの荷を2連吊りで揚重していた。高さ30m付近で、345kgの荷のナイロンスリングが2本ともクレーンのフックから外れ、玉掛けをせず4tトラックから小物資材を手作業で荷卸し中の被災者の上に落下した。	30201	4	10～ 29
2021	6	8 ～ 10	コース管理棟の洗車場において、芝刈り機の刃の交換を行うため、ドラグショベルにより芝刈り機の前部分部分を吊り上げ、芝刈り機の下に潜るようにして刃の交換を始めたところ、玉掛け用ベルトスリングが	140301	4	10～ 29

			切れたことにより、吊っていた芝刈り機の下敷きとなったもの。			
2021	6	14 ～ 16	砂防堰堤の建設工事現場において、伐採木を片付けるため、クレーン機能付きドラグ・ショベルを用いて、長さの異なるスギの伐採木3本をつつて、旋回したところ、3本のうち短い2本が玉掛用ワイヤロープからすり抜けて落下し、このうち1本が地面で跳ね返り、被災者に激突したもの。被災者に激突した伐採木は、長さ約4.3m、直径52～80cm、推定重量約1tであった。	30108	6	1～9
2021	10	8 ～ 10	被災者は、建築用鉄骨柱部材（空洞状の箱物（以下「加工材」という。）60cm角、長さ70cm、重量約500kg）の溶接加工を行っていた。その際、空荷の10t天井クレーン（フックにつりチェーン及びハッカー取付）を操作したところ、加工材を載せていた台座（H鋼と空洞状鋼材を組合せたもの）が倒れ、同時に当該加工材が被災者の腹部に落下し、下敷きとなったもの。	11209	4	50～ 99
2021	12	8 ～ 10	ロータリークラッシャーの整備作業において、被災者を含め2名でロータリークラッシャーの上に搭載されているリターンコンベアの位置をずらす必要があったため、被災者がリターンコンベアにチェーンを巻き付け、ドラグショベルのバケットのフックにかけて運転者がつり上げたところ、チェーンが破断、リターンコンベアが転倒してステップの手すりとの間に被災者の腹部が挟まれた。病院で死亡した。	150103	7	1～9
2020	1	16 ～ 18	熱交換器（重さ約10トン）の塗装準備作業のため、天井クレーンで地上から約1.3mまでつり上げて移動させていたところ、玉掛けに使用していたスリング2本のうち1本が切れ、吊っていた熱交換器が落下して下敷きになった。	11301	4	10～ 29
2020	1	22 ～ 24	被災者等は現在建築中の建屋内に設置する設備の架台等の設置作業を行っていた。被災者とは別の5名の労働者で作業を分担して床板（重量：約160kg）を床面から約20mまで天井クレーン（つり上げ荷重：40.9t）でつり上げている時に床板に取り付けていた2個のクランプのうち1個が外れ、その後、残りのクランプも外れて地上	30302	4	10～ 29

			へ落下し、跳ねて飛来した床板が付近にいた被災者に激突した。			
2020	2	12 ～ 14	工場内で、被災者及び労働者Aがつり上げ荷重5.1tの天井クレーン（つクランプが3個掛けられている）を用いて、ローラーコンベアー上のH型鋼（高さ0.8m×幅0.25m×長さ約1.1m：重量約2t）の向きを変える作業を行っていた。被災者がクレーンを巻上げたとこ、起こしてあったH型鋼のフランジ部につクランプがひっかかり、同鋼材が倒れて被災者が下敷きとなった。	11209	5	10～ 29
2020	6	10 ～ 12	10tトレーラシャーシにトラクタヘッド1台と2tトラック2台を乗せ固縛一体化した荷（重量28t）を揚貨装置（制限荷重32.5t）で船積み中（元請鈴江コーポレーション、荷役作業東横商船）、片方の玉掛用具（チェーンスリング）が切断しシャーシが宙吊りとなり、トラック2台が約10m落ちて、船倉内中甲板でラッシング金具溶接中（荷役とは別の発注）の工業の代表（肋骨骨折等）と被災者（死亡）が下敷きとなった。	11301	4	1～9
2020	7	10 ～ 12	被災者2名が縦最大1.53m、横最大3.85m、厚さ0.03mの金型用ベースプレートを、つり上げ荷重2.8tの天井クレーンでハッカーを用いて高さ約1.8mまでつり上げ、その下面の切削粉、油等をウェスで拭く作業を行っていたところ、ベースプレートがハッカーからずれ落ち、被災者が落下したベースプレートの下敷きとなったもの。	11301	4	1～9
2020	8	10 ～ 12	鉄塔の建替工事現場において、鉄塔の部材をジブクレーンで移動させようとしたところ、地上から約7.7m地点で、吊り荷（長さ565cmの鉄骨）がスリングベルトから外れて落下した。斜面に落下した吊り荷は斜面下部方向に倒れ、玉掛けの準備作業を行っていた被災者に激突したものである。	30301	4	10～ 29
		10	被災者は重さ2.484トン、縦3m、横7m、高さ3mの自動車用塗装ブースを、つり上げ荷重2.8トンの天井クレーンでつり上げていた。被災者はつり荷の落下防止の措置を行わず、天井クレーンでつ			10～

2020	10	～ 12	り上げられた自動車用塗装ブースの下に立ち入り、自動車用塗装ブースの底面を塗装していたところ、玉掛用具（レバーホイストのチェーン部）が破断し、被災者はその下敷きになって死亡した。	11301	4	29
2020	12	16 ～ 18	トラックからL字型のコンクリート擁壁を、移動式クレーンで地面に降ろし、擁壁に玉掛された3つある玉掛ワイヤーロープをすべて外したと被災者が思い込み、被災者が歩きながらクレーンの巻上の合図をし、クレーンを動かしたところ、3つある玉掛ワイヤーロープのうち1つが外れていなかったため、当該擁壁が被災者がいる方向に倒れ、被災者が下敷きとなった。	30106	6	10～ 29
2019	3	10 ～ 12	用水路を設置するための土木工事現場において、つり上げ荷重2.9 tのクレーン機能付きドラグショベルで、重さ約850 kgのU字溝をつりクランプ2個を使用してつり上げていたところ、片方のつりクランプが外れU字溝が落下し、付近で作業をしていた被災者に激突したものの。	30107	4	1～9
2019	6	14 ～ 16	工事中道路に敷鉄板を敷設するため、クレーン機能付きドラグショベルで貨物自動車の荷台から敷鉄板を吊り下ろしていた。敷鉄板の穴（玉掛用にあらかじめ加工されたもの）に玉掛用チェーンのフックを掛けて吊り上げ、次に敷鉄板を地面に着地させたところ、穴から玉掛用チェーンのフックが外れ、倒れた敷鉄板と貨物自動車間に被災者がはさまれ死亡した。	30108	5	50～ 99
2019	9	14 ～ 16	被災者は、専用吊具（C型フック）を取り付けた定格荷重2.8 tのホイスト式天井クレーンを操作して、鋼線材コイル3束を吊り上げ移動していた。吊り荷を停止し90度回転させる位置で、吊り荷のコイル1束（重量約500 kg）がC型フックから落下し、コイルに激突され被災した。	11001	4	50～ 99
		14	工場において、単独で橋形クレーン（片脚式、つり上げ荷重2.827トン）を用いて運搬した約660 kgの鋼材を作業場所に縦置き			50～

2019	9	～	し、鋼材に掛けていた二つのハッカーを外した後、当該クレーンの巻き上げを行ったところ、ハッカーの一つが鋼材の上フランジに引っかかったことにより、鋼材が倒れて下敷きとなり死亡した。	11209	5	99
2018	1	10 ～ 11	河川改修工事において、溝壁の土止め壁に用いていた鉄板（横152cm、縦303cm、厚さ2.4cm、推定重量800～900kg）の位置を調整するため、ドラグショベル（クレーン機能付き）で吊り上げて移動させ、玉掛けをしたままで地面に立てていたところ、クランプ（一本吊り）から鉄板が外れたために鉄板が倒れ、近くにいた被災者が鉄板の下敷きになった。	30199	4	1～9
2018	2	14 ～ 15	マンション新築工事現場において、移動式クレーンを用いて鉄筋の（総重量約360キログラム）6個の束を、輸送してきた運送会社の労働者（運転手）が玉掛け作業を行い、9階につり上げていたところ、6個のうち1個の束が外れ地上に落下し、運送会社の労働者の頭部に当たり死亡。	40301	4	10～ 29
2018	3	8 ～ 9	機械製品（重量約2t）出荷のため10tトラックへ積み込み作業中、同僚と2人で丸鋼棒を製品下部フレーム部に空けられた2箇所の穴に左右35cmほどフレームから出るように各々差し込み、フレームから出た部分に約7mの繊維スリングをたすき掛けに目掛けし、天井クレーンでつり上げ、約20m移動させたところ、荷のバランスが突然崩れ吊り荷が落下、荷の介添えをしながらクレーンを運転していた被災者が下敷きになったもの。	11301	4	10～ 29
2018	4	8 ～ 9	耐火物ガラ上に寝かせてあったダンディッシュ（溶鋼の一時受け容器）の蓋（L3×W1×t0.1m、重量約1t）を天井クレーン（30t）で起こしてつり上げようとした。つりチェーンのフック（外れ止めなし）を蓋のつり金具2か所に掛け（2点ぶり）、巻き上げ操作をしていたところ、蓋が直立したところでフックがつり金具から外れたため、蓋が倒れて天井クレーンの運転をしていた被災者が下敷きとなった。	11001	5	1～9

2018	5	14 ～ 15	S造1階建て工場新築工事において、ラフタークレーンで横置き鉄骨柱（長さ9m、重量約1t）をつり上げるため、鉄骨柱の一方の端部に玉掛けをし、クレーンを巻き上げ、片側を浮かせたところ、玉掛け用具であるフック付きワイヤロープのフック外止めが破損して鉄骨柱から外れ、鉄骨柱（端部の高さ約6.4m）が安定を失い転倒した。周囲にいた玉掛け者（休業）と通行中の作業員（死亡）が下敷きになった。	30201	4	10～ 29
2018	6	10 ～ 11	解体作業場において、チェーンスリング4本の先端のフックをインペラー4個にそれぞれ掛け、被災者がクレーンを使用して移動させようとしたところ、インペラーの一つが解体装置格子部分に引っかかり、チェーンスリングのフックがインペラーから外れ、そのフックが被災者の左胸に当たり被災した。その後入院治療を行っていたが、急性呼吸不全で死亡したものである。	11301	6	1～9
2018	7	16 ～ 17	マンション外壁改修工事（15階建て）において、足場組立て作業中にウインチを用いて足場部材（1200鳥居枠）の荷揚げ作業をしていたところ、13階部分で足場材を取り込む際、スリングベルトがフックから外れ部材が落下し、地上で作業をしていた被災者に当たり被災したものの。	30209	4	1～9
2018	7	16 ～ 17	造船所構内の内作工場、15t天井クレーンで船の壁材（鉄板）を吊って運搬中、吊っていた壁材を一旦、着地させた際、クランプが外れ倒れた壁材の下敷きになり死亡した。壁材は、3.35m×2.65m×厚さ6mm（重さ436キログラム）でクランプによる1点吊りにより、被災者が無線操作により当該クレーンを操作していた。	11501	6	100 ～ 299
2018	7	8 ～ 9	天井クレーンで鉄板（290cm×1185cm×0.9cm）2枚（合計重量約4.8t）を吊り梁を用いて、玉掛けワイヤロープを介して6点のハッカーで吊り台車に置こうとしたが、当該台車にパレットが置いてあったので、パレットを移動させるためクレーンを一旦止めた。この時、両端のハッカーが外れて鉄板が落下し、鉄板の下を通	11501	4	10～ 29

			行していた被災者が下敷きになった。			
2018	10	16 ～ 17	被災者は、貯水槽の製作作業において、壁面で使用する鉄板の取付け位置の確認のため、クレーンで鉄板をつり上げ所定の位置に移動させ、うまに乗って取付け位置の確認を行っていたところ、うまに乗っていた被災者及び取付けようとしていた鉄板が倒れ、当該鉄板と貯水槽の壁面との間に首が挟まれた。	11509	5	10～ 29
2018	11	14 ～ 15	被災者は鋼板の成型で使用するローラーの組立作業を行っており、天井クレーンを用いてロールを台座の上に置き、ロールと台座をボルトで固定した後、玉掛け用ワイヤロープに付けたシャックルを外した。被災者が天井クレーンの運転者に巻き上げの合図を行い、当該ワイヤロープを天井クレーンで引き上げたところ、ロール及び台座（約1.7トン）が持ち上がって被災者の方へ転倒し、被災者の背面にあった台座との間に挟まれ被災した。	11702	5	1～9
2018	11	10 ～ 11	被災者は、工場内で建築用鉄骨（H鋼重量約400キログラム長さ約5m）をハッカーで玉掛けし天井クレーンで吊り上げ、作業架台に降ろした。被災者が、ハッカーをH鋼より外したところ、当該H鋼が被災者方向に作業架台より落下し、下敷きになった。救急により病院に搬送されたが死亡が確認された。	11001	4	1～9
2018	11	14 ～ 15	つり上げ荷重70tのクローラークレーンで、クランプ2個を用いてつり上げていたH型鋼杭（長さ25m、重さ4.66t）を斜面に仮置きするため、H型鋼杭の片側端部を斜面に着地させ、さらに巻き下げにて荷を下ろそうとしていたところ、クランプからH型鋼杭が外れて落下し、合図者である被災者がH型鋼杭と切株との間にはさまれ死亡したもの。なお、クランプ1個の許容荷重は1tであった。	30105	4	10～ 29
2018	12	10 ～	被災者は、移動式クレーンで吊った埋め戻し用土砂を入れたバケツ（土砂運搬用の金属容器）を用い、掘削面の埋め戻し作業を行っていたが、当該バケツを吊り上げている途中、高さ12メートルの場所で移動式クレーンのフックに取り付けられた補助吊り具に取り付けら	30201	6	1～9

		11	れた玉掛けワイヤーロープが外れて、バケットが地上に落下して跳ね、近くにいた被災者に激突したもの。			
2018	12	10 ～ 11	ドラグ・ショベル（移動式クレーン仕様）を用いてつり上げた鋼製型枠の束（全長1.5メートル、推定質量約500kg）をトラックの荷台に下ろす作業において、玉掛けに使用したチェーンが切断して荷が崩れ、その下にいた被災者が下敷きになったもの。	70101	4	1～9
2017	3	8 ～ 9	RC造5階建て建設工事現場において、被災者が角鋼管約40本の束（重量約100kg）を玉掛けし、移動式クレーンを用いて屋上へとつり上げようとしたところ、高さ約20mに達したところで束から約10本が抜け落ち、下方にいた被災者の頭部へと落下した。被災者は、5日後に死亡した。角鋼管は5cm角×長さ1mで、番線で結束されており、これに玉掛ワイヤーロープを掛け、一本吊りにて吊り上げていた。	30201	4	10～ 29
2017	3	16 ～ 17	桁製作ヤード内において、2.9t橋型クレーンを使用し、鋼製型枠7枚（重量1.8t）を2本のスリングで玉掛けし、吊り上げて移動中、ナイロンスリングの1本が切断し、荷が傾斜しながら落下し、もう1本のスリングも切断した。鋼製型枠が落下し、近傍にいたクレーン操作者に激突した。	30199	4	10～ 29
2017	4	8 ～ 9	工事現場事務所兼資材置場において、トラッククレーン（つり上げ荷重2.9t）による鉄骨材積み込み作業を被災者が単独で行っていたところ、2点吊りしていた玉掛け用の繊維ロープから吊荷（長さ4.1m重量約250kgと長さ3.4m重量約250kgの2束）が外れ、被災者にあたり、被災者が吊荷と共に墜落し、鉄骨材と地面に挟まれた。クレーン操作と玉掛けは被災者自身が実施していた。	40301	4	1～9
2017	4	8 ～	クレーンを使用して鉄板の束の積み替え作業中、玉掛け用具として使用していたハッカーの一部が近接した荷の山（鉄板の束を重ねたもの）の上部に接触し、ハッカーが鉄板の束から外れた。吊っていた鉄	11009	7	30～ 49

		9	板の束が崩れたことによりクレーンを操作していた被災者が後方にあった別の荷の山との間に挟まれた。			
2017	5	10 ～ 11	自社敷地内において16トン移動式クレーンを使用して1.6トンの敷鉄板の移動を行っていた。敷鉄板を片側が接地した状態で引き起こし、被災者が鉄板に付いた土を取り除こうと鉄板に接近した際、直接敷鉄板の穴の部分にかけていた玉掛け用フックが外れ鉄板が被災者側に倒れてきた。	80409	7	50～ 99
2017	6	12 ～ 13	高速道路舗装工事現場で、橋梁ジョイント部保護のため、トラッククレーンで鉄板(3.0m×1.5m×25mm、重量900kg)を敷設したところ、接地面が安定しなかったため、再度、同クレーンにて鉄板端部1箇所に玉掛用具のフックを掛け、鉄板の片側を約60cm引き上げて、他の作業者が接地面の砂利をならしていた。被災者が接地面をのぞき込んだところ、玉掛用具のフックが外れ、落下した鉄板の下敷きになった。	30106	4	1～9
2017	8	8 ～ 9	保育所新築工事の基礎工事において、回転圧入する杭(長さ5.56m、質量380kg)を機体重量14トンの杭打ち機にセットするため、杭の一端に玉掛けワイヤーロープをくくりつけ、杭打ち機に設けられた巻上げ機でつり上げたところ、杭が鉛直になったときに玉掛けワイヤーロープが切れ、杭が杭打ち機の方に倒れ始めたため、運転者が驚いて降車したところ、倒れてきた杭が丁度その運転者の頭部を直撃し、運転者が死亡した。	30201	6	10～ 29
2017	11	8 ～ 9	施工する新築工事現場に自社製作の木製パネルを納入するため、トラックの荷台から移動式クレーンで金属枠に複数のパネルを収納し吊り上げたところ、金属枠の連結部分が外れ、パネルが落下し、当該パネルを運搬してきた運転手が下敷きとなった。	10401	5	10～ 29
2017	11	10 ～	スクラップ鋼回収のため、ガス溶断したH型鋼(約520kg)を、4.8t天井クレーンで搬出しようと吊り上げ操作したところ、片側のハッカーの吊りチェーンが破断した。その衝撃により外れたもう片	11009	6	10～

		11	方のハッカーのフック部（40～50kg）が被災者の左側頭部に激突した。			29
2016	1	10 ～ 11	被災者は、資材置き場内の片付け作業のため、車両積載型トラッククレーンの荷台上に積載された積み荷（ロットと呼ばれる土木工事用の鋼製ドリル、約250キログラム）を、同僚作業者の運転する同移動式クレーン（定格荷重2.9トン）を用い荷の積下ろし作業を行っていたところ、玉掛け用ベルトスリングが破断し、積み荷が落下、もって被災者はその下敷きになった。	30110	4	10～ 29
2016	1	19 ～ 20	被災者は、四角柱のビレット（150mm×150mm、長さ2.5m、重量250kg）を定格荷重2tのジブクレーンでリフティングマグネット（最大使用荷重1t）を使ってつり上げ、移動していたところ、リフティングマグネットからビレットが外れ、当該ビレットが被災者に落下した。	11001	4	100 ～ 299
2016	2	13 ～ 14	つり上げ荷重25トンのホイールクレーンを用いて荷（ロール状のコンベアベルト：重量約6トン）をトラックの荷台に積込む作業において、トラックの荷台上15cmの位置で荷を静止させた時、玉掛けに使用していた繊維ベルト2本の内1本が切断した為、荷は一旦荷台に落下した後、90cm下の地面に落下した。その際、荷下ろし作業のため荷台上で荷の近くにいた被災者に荷が激突し、被災者も地面に転落した。	30302	4	10～ 29
2016	2	13 ～ 14	車両系建設機械の修理工場建屋内で、アタッチメントの溶接補修を行っていた被災者が、補修材料として使用する鉄板（1680×1530ミリ：約200kg）を天井クレーン（2.8t）で移動させていた。近くにいた作業者が鉄板が倒れた音を聞き駆けつけたところ被災者が仰向けの状態で鉄板の下敷きになっていた。すぐに助け出し救急搬送したが病院で死亡が確認された。	80409	6	10～ 29
			工場の建築資材用トラス梁（以下「梁」という。）の製作において、			

2016	3	9 ～ 10	高さ1.2m、長さ7.6m、幅25cm、重量約1tの梁を定格荷重2.0tの片脚橋型クレーンで立てたまま移動させ、玉外し後にクレーンの巻上げ操作をしたところ、玉掛け用具が立てていた梁に引っかかり、倒れて来た梁とクレーン脚部との間に被災者が挟まれた。	11209	5	10～ 29
2016	3	7 ～ 8	工場の粉碎工程への材料供給を行う際に、テルハ（つり上げ荷重1トン）によりフレキシブルコンテナ（700kg）を吊って、コンテナ下部の巾着紐の緩め作業を一人で行っていた被災者が、吊っていたコンテナが落下したことによりホッパーとの間に、頭部と左手を挟まれた。	10609	4	10～ 29
2016	4	9 ～ 10	13階建てマンションの建設工事において、10階壁の配筋作業中、当該箇所で行っていた鉄筋組立業者がクライミングクレーンを用いて廃材を地上まで下ろしていたところ、高さ約30mの位置で廃材の一つである鉄筋（長さ30cm、直径35mm）がワイヤーモックから落下し、地上で内装設備の搬入作業を行っていた被災者の頭部に当たった。	30203	4	1～9
2016	4	14 ～ 15	建屋内にて鉄骨加工物の塗装作業において、つり上げ荷重2.8トンの天井クレーンを操作し加工物を地上から1.6mの高さまでつり上げたままの状態加工物の下部を塗装していたところ、2点づりで玉掛けしていたワイヤロープのうちの1本が天井クレーンのフックから外れ、加工物が落下。塗装作業の補助を行っていた下請の労働者の右肩から背中に当たり、上行大動脈断裂により死亡した。	11209	4	1～9
2016	5	12 ～ 13	被災者は、建設現場で使用した型枠用単管パイプを資材置場に片付けるため小型移動式クレーンを使用し荷下ろしを行っている際に単管パイプ41本（1本あたり4.5m、約10kg）の下敷きとなり、上半身を圧迫され死亡した。	30201	4	1～9
		13	被災者は、梱包された鉄板の束（2400×1200×5mm、19枚、計2t）を4束積んだ荷を、ハッカーの4点づりで天井クレーン（20t）を用いてつり上げ、西側に移動させていた。被災者が荷を			50～

2016	5	～ 14	移動させている途中、一方のハッカーが外れ、荷が落下した。荷は積まれていた別の鉄板の束の上に一度落ちてから、被災者のいる方向に滑り落ちて被災者に激突した。	11009	4	99
2016	5	～ 15	新築工事現場において、被災者がトラックで運搬した野地板（91×1820×12ミリメートル×30枚×2、総重量約600キログラム）を同現場敷地内に仮置きするため、代表者が移動式クレーン（つり上げ荷重10トン）で荷下ろし作業を行った際、荷が落下し被災者に激突した。	40301	4	30～ 49
2016	6	～ 16	屋外の資材置場において、工場内で製造した鋼材（重量約3.5t、長さ約12m、幅約0.4mのH型鉄骨支柱）を移動式クレーン（ラフテレーンクレーン：つり上げ荷重70t）でトラックからつり上げて降ろしていたところ、つりクランプが外れて鋼材が落下し、被災者（玉掛者）が下敷きとなり死亡した。	11209	4	10～ 29
2016	6	～ 14	被災者は、トラックで搬入された50枚の鉄板束（重量約2685kg）をホイスト式天井クレーン（定格荷重2t）で所定位置に運搬させるため、被災者とトラック運転者がトラックの荷台上で玉掛けし、クレーンを走行させたところ、鉄板束が被災者の上に飛来・落下し、被災した。	11209	4	10～ 29
2016	9	～ 11	工場ヤードにおいて3人で2.8t門型クレーンを用いてH鋼（重さ約2.5t、長さ約9m）をトレーラーの荷台に積み込み作業中、最後の8本目を積み終え、被災者はH鋼の上に乗って玉掛クランプを外し、クレーンの運転手に巻き上げを指示したところ、玉掛クランプがH鋼にひっかかり、H鋼もろとも地上に落下し、死亡した。	40301	5	30～ 49
2016	10	～ 16	工事において、現場で使用する木製トラス（1枚：117kg）13枚を移動式クレーンを使用して、新築中の建物内部から外部へ同時に移動した際に発生した。13枚の木製トラスをベルトスリングで2本吊りして、高さ約7mまでつり上げた時、片方のベルトスリングが切	30202	4	100 ～ 299

			れ、つり上げられた木製トラスが落下し、地上で指揮をとっていた被災者に当たった。			
2016	11	10 ～ 11	資材置場でつり上げ荷重2.9トンの積載形トラッククレーンを用いて型枠材(600キログラム)の荷卸作業中、玉掛に用いたチェーンが破断したため、つり荷が落下し、被災者の頭部を直撃、被災者は、積載形トラッククレーン荷台から地面に墜落した。	30209	4	1～9
2015	8	13 ～ 14	工場内で、溶接ヤードから大きな音がしたので、不審に思った作業者が近づいたところ、床に倒れている被災者を発見した。倒れていた箇所は、製品の鉄骨を置くためのリン木(H400×300)を並べているところで、リン木の上には鉄骨(H600×300、長さ4.6m)が置かれていた。また頭上には10t天井クレーンがあった。死因は「頸椎骨折、脳挫傷」。着用していたヘルメットにも大きな傷が付いていた。	11209	4	10～ 29
2015	6	9 ～ 10	工事現場内で土留め用のシートパイルを設置するためのケーシング(φ360mm、長さ11m)を移動式クレーンで運搬するため、ハッカーで2箇所玉掛けし、約1.5m吊り上げたところ、ケーシングが縦ぶれし、玉掛け用具が外れ、ケーシングの近くにいた被災者の右足に落下し、負傷したもの。その後、病院に運ばれ、約3時間後死亡が確認された。	30106	4	10～ 29
2015	7	11 ～ 12	移動式クレーンにて、解体されたコンベヤーの鉄骨架台をつり上げている途中、何らかの理由により被災者が鉄骨架台の下に立ち入ったところ、玉掛用具の繊維ベルトが切断し、鉄骨架台が落下し被災者に激突したもの。	30302	4	1～9
2015	7	12 ～ 13	宅地造成工事現場において、クレーン機能付き油圧ショベルを使用し、仮設用敷鉄板(3.0m×1.5m/802キログラム)をトラック(4t)に積み込む作業を行った際、敷鉄板が吊り具から外れ、トラック近くで左官作業をしていた被災者に落下した。被災者は当該敷鉄板と隣接するブロック塀との間に挟まれ死亡した。	30109	4	1～9

2015	1	8 ～ 9	鉄骨材13本（総重量約5.5t）を被災者が玉掛けし、同僚が運転する天井クレーン（定格荷重2.8t）で吊って運搬していたところ、玉掛けしていたワイヤーロープが切断し、鉄骨材が地面に落下し、その反動で跳ねた鉄骨材が被災者に激突したものの。	11209	4	10～ 29
2015	5	16 ～ 17	国道共同溝補強のためのシートパイルを敷設する工事において、掘削土留め用鋼矢板をワイヤーロープとキャッチクランプを用いて、移動式クレーンにて吊り上げ作業を行っていたところ、当該ワイヤーロープから掘削土留め用鋼矢板が外れ、下方で作業していた被災者に鋼矢板が当たり、頭部挫傷および大腿部骨折をした被災者が死亡したものの。	30199	4	1～9
2015	9	14 ～ 15	棟上げ初日で2階南側床パネルが敷かれた作業床端部において床パネルの釘打ち作業を行っていたところ、別途移動式クレーン（吊上げ荷重13トン）により吊り上げられた床パネル材（緊結15枚、重さ300kg）が、被災者の上方3.5メートルで荷崩れを起こし、床材1枚が被災者の背中に当たり、それにより、被災者は当該作業床端部から3.8メートル下の地面に墜落し頭蓋骨骨折、肝臓からの出血多量で死亡した。	30202	4	1～9
2015	10	16 ～ 17	市発注の道路補修工事において、作業員4名が作業中、ドラグショベルのバケットの作業装置に先端がコの字状のつり上げ器具を取り付けて敷鉄板（1.5×3.0m、重量約700kg）をつり上げた際、つり上げ器具から鉄板が外れて、つり荷を押さえていた作業員に倒れかかり、大腿部を挟まれ死亡したものの。	30106	6	1～9
2015	5	11 ～ 12	被災者一人で、資材ヤードから工場内に10tトラックでH鋼材を運搬するため、資材ヤードに設置している橋形クレーン（5t）を使用して、長さ4mのH鋼材（重量388kg/本）5本を交互に積み重ねた状態でつりチェーンで玉掛けしたものをトラックに積み積む作業を行っていた。11時15分頃、職場の巡視を行っていた工場次長が、荷くずれしたH鋼の脇で頭から血を流し、10tトラック東側に	11209	5	30～ 49

			倒れている被災者を発見した。			
2015	5	16 ～ 17	被災者は単独で、天井クレーン（1 t）を操作し、高圧洗浄機を2階床（高さ2.94 m）に移動していたところ、フックに吊るために高圧洗浄機のフレームに縛り付けていたベルトの一端がほどけ、高圧洗浄機が落下し、被災者の頭部に激突したものの。	10909	4	1～9
2015	12	11 ～ 12	一戸建新築工事現場において、トラックで搬入された資材等を移動式クレーン（ホイールクレーン、つり上げ荷重4.9 t）を用いて荷降ろしする作業中に約15 mの高さにつり上げたシステムキッチン（約350 kg）が落下し、その衝撃で破損した部材が付近で別の作業をしていた被災者に当たり、その勢いで被災者は後方に転倒、後頭部を地面に打ちつけ、意識不明となっていたが12月10日に死亡したものの。	40301	4	10～ 29
2015	10	10 ～ 11	移動式クレーンの吊り荷である足場の交差筋交い約200本が落下、吊り荷搬送用トラック荷台で荷受け作業をしていた被災者がその下敷きになり死亡したものの。交差筋交いは、建柱を単管とワイヤーで固定した簡易な搬器にバラ積みされていたものの。	30209	4	1～9
2015	10	21 ～ 22	天井クレーンを用いて、パレット台車に熱延鋼板を積み込み、玉外しを行った後にクレーンを走行させているときに、玉掛用具であるハッカーが積み込んだ熱延鋼板に接触し（推定）、積み込んだ熱延鋼板の上部5枚（2.6 t）が荷崩れを起こし、被災者に激突した。	50101	5	1000 ～ 9999
2014	5	15 ～ 16	コイルの検品作業中、被災者がクラブトロリ式天井クレーンにてコイルをつり上げ、アンコイラーのセグメントに取り付ける作業を行っていたところ、玉掛用ワイヤロープが切れ、アンコイラーに取り付けようとしていたコイルが落下し、被災者の足の膝下がコイルと床に挟まれた。	11209	4	50～ 99
2014	5	10 ～	床上操作式天井クレーンを使用し、ショットブラスト装置の搬出側ローラー架台上の鋼材をつり上げ、横転させようとした際、玉掛けをしていたクランプが外れ、鋼材とローラー架台との間に胸部を挟まれ	11209	7	10～ 29

		11	た。			
2014	6	8 ～ 9	移動式クレーンで大型土のうをつり上げ、旋回させたところ、つり具のシャックルが破断し、被災者が落下した荷の下敷きになり死亡した。	30106	4	30～ 49
2014	7	21 ～ 22	被災者は、天井クレーンフックにリフティングマグネットをかけ、トラック荷台上から架台を地上から約90cmに吊り上げ、トラックを退避させた後、地面に仮置きするため、盤木を架台の下に置こうとしたところ、リフティングマグネットから架台が外れ、被災者の頭部に当たった。	11301	4	10～ 29
2014	8	9 ～ 10	トラックの荷台に、L型鋼材計14本の束を天井クレーン2基により積み込む作業を行っていたところ、玉掛けに使用していたワイヤロープの1本が切れ、鋼材が落下し、被災者の頭部に当たり、死亡した。	40301	4	30～ 49
2014	9	17 ～ 18	床上操作式クレーンを用いて、鋼管棚をつり上げようとしたところ、玉掛用具であるベルトスリングが切れ、鋼管棚が被災者に激突した。	11301	4	10～ 29
2014	10	9 ～ 10	宅地造成工事現場にて、トラックの荷台から敷鉄板を地上に下ろすため、ドラグショベルを使用し、敷鉄板を吊り上げようとしたところ、鋼棒がバケットから外れ、敷鉄板がトラックの荷台から滑り落ち、トラック側方の側溝で作業していた被災者に鉄板が激突し、敷鉄板の下敷きとなった。	30199	4	10～ 29
2014	10	10 ～ 11	解体したローディングアームをトレーラーに積もうと移動式クレーンで吊り、地面に水平に寝かせる作業を行っていたところ、ローディングアームに掛けていたナイロンスリングが切れ、落下し、ローディングアームの下にいた被災者に激突した。	30309	6	10～ 29
2014	12	11 ～ 12	被災者は、出荷予定部品を床上操作式天井クレーンにハッカーを用いてつり上げ、フォークリフトに載せられた金属製のパレットへ移動させていた際、ハッカーから外れた荷が後方に倒れ、後頭部を強打し	11509	2	100 ～ 299

			た。			
2013	3	15 ～ 16	被災者は、4.8トンの天井クレーンを使用し、ルーバーと呼ばれる船舶通気口の扉（約250kg）を吊り上げ近くの床に下ろしたところ、荷に掛けていたフックが外れ、荷のそばで当該クレーンのペンダントスイッチを操作していた被災者に激突した。尚、作業は単独作業であり、被災者は0.5トンのチェンブロックを玉掛け用具として使用していた。	11501	6	10～ 29
2013	4	11 ～ 12	自社工場内で溶接機（重量100kg）を天井クレーン（つり上げ荷重2.8t）で吊って移動中、床に置いてあった加工中の製品に接触し、玉掛け用具（爪状フック）が外れ溶接機が落下。傍にいた操作者が、左大腿部を負傷した。	11501	4	1～9
2013	10	11 ～ 12	ドラグショベルでつり上げた雨水桧（重量約220kg）が、つり具の縦型クランプから外れて地面（勾配11°～16°）を転がり、高さ約3m下へ落下し、法面の下でモルタルの均し作業をしていた被災者が下敷きとなり死亡した。尚、ドラグショベルはクレーン仕様ではなかった。	30199	4	1～9
2013	5	16 ～ 17	ローラーコンベア用の搬送ローラー（重量349kg）を製作する過程において、その構成部材となるパイプ、シャフト、フランジを組合せ（仮付けした状態のもの）、その接触する円周部を直立させた状態で溶接するため、自家製の吊治具により玉掛けし、天井クレーンで吊上げ移動中、吊荷が吊治具から外れ、しゃがんだ状態でクレーン操作を行っていた被災者を直撃した。	11301	4	10～ 29
2013	9	15 ～ 16	工場内において、被災者ほか1名は共同してホイスト式天井クレーン（定格荷重5t）2基を運転し、共吊りにより角型鋼管（建築資材用）2本をハッカーで玉掛けを行い移動させた。被災者は、吊り荷（地上から約1.7m）の下に入り、枕木として使う栈木を拾っていたところ、吊り荷が落下し下敷きになった。	11209	4	1～9
		18	大型タイヤ（重量約300kg）をクレーンを使用して移動させた			

2013	11	～	際、何らかの原因で玉掛けワイヤーが外れ、当該タイヤの下敷きに	11701	7	1～9
	19		なった。			
2013	10	～	天井クレーンで吊られたリフティングマグネットを用い、金属スクラッ	11209	4	30～
	12		プを移動させていたところ、スクラップの一部が被災者の頭部に落下			49
			したともものと推測される。尚、現認者はいない。			
2013	10	～	天井クレーンのフックに、2本のベルトスリングで金属製ロール（長	11301	4	1～9
	11		さ2.9m、重量約800kg）の両端部のシャフトに玉掛けし、移			
			動させていたところ、フックからベルトスリングの1本が外れ、ロー			
			ルの下を通行しようとした被災者にロールが落下した。尚、被災者			
			は、周辺の清掃を手伝おうとしたものと推測される。			
2013	1	～	民間企業の駐車場にコンクリート板を敷設する工事で、移動式クレー	30199	6	1～9
	9		ン仕様を備えたドラグ・ショベルをクレーンモードに切り替え、約2			
			トンのコンクリート板の角にワイヤロープを掛けて吊り、掛けていた			
			ワイヤロープとシャックルをコンクリート板の2箇所のフックから外			
			すため、被災者がコンクリート板の下に潜っていたところ、角に掛け			
			ていたワイヤロープが外れコンクリート板が被災者の頭部に激突し			
			た。			
2013	7	～	工場内において、片脚橋型クレーン（つり上げ荷重2.8t）を使用	11209	4	10～
	19		し、架台（重量約600kg）をつり上げて移動中、つりクランプが			29
	20		同架台から外れ、荷の下でかがんでH鋼の溶接作業を行っていた被			
			災者に落下した。尚、つりクランプは横つり用クランプを使用し、2			
			点つりをしていた。			
2013	7	～	建築物解体工事において、引き抜いた鋼矢板（長さ10m、重量75	30201	4	50～
	11		0kg）を移動式クレーン（ジブが伸縮するホイールクレーン25			99
	12		t）でつり上げ、撤去する作業中、つり上げた鋼矢板を地面に横倒す			
			ため、その先端を地面上のコンパネに降ろしたところ、補巻きフック			
			（外れ止め装置有り）より玉掛けワイヤロープが外れ鋼矢板が横倒し			
			となり、誘導していた被災者他1名が、倒れてきた鋼矢板の下敷きに			

			なった。			
2013	6	13 ～ 14	定置網固定用の綱（長さ約15m、重量約400kg、約50個のブイを取り付け）を積載型移動式クレーンのトラックの荷台に積み込むため、（綱の中央部に取り付けていた）輪にした繊維ロープを玉掛け用のフックにかけ、クレーンでつり上げ、ジブを荷台の中心まで旋回させたところ、繊維ロープの結び目が解け、綱がトラックの荷台上に落下し、荷台上の被災者の顔面に綱及びブイが激突した。	70201	4	10～ 29
2012	6	7 ～ 8	災害発生場所であるトンネル工事現場へ、L型擁壁（幅0.6m、高さ1m、長さ1.9m、重さ1.4t）を7.3t積みの積載型移動式クレーン（つり上げ荷重2.9t）で運搬した。現場到着後、同僚が当該移動式クレーンを運転し、被災者が当該擁壁の玉掛けを行い、擁壁の積下ろしを行った。積み下ろしている最中に、鉄筋を加工した玉掛け用具が破断し、当該擁壁が被災者の腹部から下腿部にかけて落下した。	40301	4	10～ 29
2012	11	8 ～ 9	地すべりの復旧工事において、河川の護岸工として「ふとんかご」を設置する作業に被災者が従事していたところ、かご枠の部品（1枚20kg）20枚を現場に搬入するため車両系建設機械（バックホー）のバケットつり金具にワイヤロープを玉掛けしてつり上げていた際、玉掛けワイヤロープが外れて直下で荷降ろし準備をしていた被災者に荷が落下した。	30199	4	1～9
2012	12	11 ～ 12	船の修理時に使用する船台の床面張り替え作業を行うため、被災者はジブクレーンを使用して、無線操作により材料である鉄板の端をクランプ1個で挟みつり上げていたところ、クランプから鉄板が外れ、鉄板の近くにいた被災者に落下し、地面と鉄板の間に挟まれた。	11501	4	1～9
2012	6	9 ～ 10	住宅建築現場において、トラックで搬送してきた住宅資材を移動式クレーンでつり上げ現場へ降ろしている際に、資材が玉掛け用具（ベルトスリング）から滑り落ち、玉掛け作業を指示していた被災者は、その下敷きとなり死亡した。	40301	4	30～ 49
			移動式クレーン（つり上げ荷重25t）を用いて材木の束（プレカット			

2012	12	8 ～ 9	された集成材28本、重さ約700kg)を床上に搬入する作業を行っていたところ、材木の束ををつり上げていたベルトスリングが横方向に移動し、材木の束の片方が床面に落下し、その反動で材木の束が飛び跳ねた。この飛び跳ねた材木の束が、台木を置く作業をしていた被災者の頭部に激突した。	30202	6	1～9
2012	2	8 ～ 9	トラック荷台から鋼材(半円筒形・重量約1t)を天井クレーン(定格荷重5t)で吊り下ろし、位置を調整しようとしたところ、玉掛けしていたクランプが外れ鋼材が落下し、トラック荷台の横にいた被災者を直撃した。なお、クレーンの操作を行ったのは荷主先の労働者であり、被災者は鋼材をトラックで運搬した労働者(運転手)だった。	40301	4	1～9
2012	1	14 ～ 15	天井式クレーン(主巻4.8t/補巻2.8t(一体型))を用い動力プレスに使用される金型を移動させていたところ、高さ約3mの棚上に置かれていたプレスの金型(つり上げていた荷とは別、上型及び下型の合計で約2t)が使用していない補巻につり下げされていたつり具(長さ約2m)に引っ掛かったことにより落下し、クレーンを運転していた被災者の頭部に激突した。	11502	4	100 ～ 299
2012	12	15 ～ 16	被災者は工場内において、金属製部品をシャックル及びフック付ワイヤーロープ、アイボルトで玉掛けし、天井クレーンで高さ約2mにつり上げた状態で塗装(上塗り)の下準備のヤスリ掛けを行っていたところ、片側のアイボルトが外れたため当該部品が落下し、その下敷きになり死亡した。	11209	4	1～9
2012	9	8 ～ 9	コンクリート2次製品(L型擁壁)を車両積載型移動式クレーンで荷台に積み込む作業中、被災者は積み込みを終えたL型擁壁から玉掛用具(フック3か所)を外し、リモコン操作でクレーンを巻き上げたところ、1か所のフックが外れていない状況であったため、L型擁壁の底部が持ち上げられて被災者方向に倒れ、積みまれていた他の擁壁との間に挟まれた。	40301	7	30～ 49
			被災者は、プレハブ小屋の移設作業中、積載型小型トラッククレーン			

2012	3	14 ～ 15	の荷台に積載した同小屋の屋根に上り、四隅に縛りつけられていた繊維ロープをフックに玉掛けしてその場に留まり、クレーン運転者が荷台より数十cm吊り上げたところロープが破断し、トラックの荷台上に落下したはずみで、被災者が約4m下の地上に墜落した。なお、被災者は、玉掛けの資格を有していなかった。	30202	1	10～ 29
2012	11	13 ～ 14	被災者は荷主の構内で積載型トラッククレーンで電線の荷積み作業を行っていた。その際、木製ドラムに巻いた電線を他の作業員がフォークリフトで当該トラックに乗せた後、被災者がクレーンのリモコンを操作して荷を荷台の中心部に移動させていたところ、玉掛けに使用していた2本の繊維ベルトのうち1本が切断し、荷が倒れ、あおりとの間に挟まれた。	40301	6	10～ 29
2011	1	8 ～ 7	事業場の土場において、当日の工事に使用する鉄製の桶（生コン、水等を入れるもの長さ290センチ幅155センチ高さ61.5センチ重さ480キロ）の中に張っていた氷を取り除くため、トラッククレーンで桶をつり上げ直立させた状態で、被災者が桶の裏側をハンマーで叩いて氷を取り除いていたところ、玉掛け用ワイヤーロープが切断し倒れた桶が被災者に当たり、その衝撃でトラッククレーンの荷台に頭を打ち死亡したものの。	30107	6	1～9
2011	4	16 ～ 17	自社の資材置き場において、水上バイク（重量約265kg）を移動させるため、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.9t）のスクラップ・グラップルに取り付けたワイヤーロープを水上バイクのハンドルに掛けてつり上げ、所定の位置まで旋回させたところ、水上バイクのハンドルの根元が折れ、高さ約5mの位置から水上バイクが落下。誘導を行っていた被災者に当たり、転倒して、振動ふるい機の角に頭部をぶつけた。	150102	4	30～ 49
		9	スクラップ材を積載した鉄製箱（長さ2.5m、幅1.1m、高さ0.7m、重量410kg）の4点にチェーンを玉掛けし、橋形クレーンにて吊り上げ、トラック荷台に下ろした後、玉掛け位置を鉄製			300

2011	1	10	箱の片側の脚2点に変更し、鉄製箱を立たせた状態で吊り上げ、スクラップを荷台に投入した。その後、鉄製箱を立たせた状態のまま、地上に下ろした後、鉄製箱が転倒し、クレーン操作者が下敷きになった。	11501	5	～
2011	3	13 14	災害発生事業場は、船舶用の揚貨装置を製造する工場である。被災者が、工場内で船舶用揚貨装置の回転台となる部品の鉄板を加工するために、当該鉄板を反転させようと工場に設置された片脚橋形クレーン（つり上げ荷重推定5トン）でつり上げていたところ、吊り具であるつりチェーンが外れて、鉄板が被災者の上に落下して死亡したもの。当初取り付けられていたつりチェーンのフックの外れ止めは、取り付けられていなかった。	11301	4	50～ 99
2011	5	10 11	工場内において、被災者がホイスト式天井クレーンで玉掛用具のハッカーを使用して鋳物部品を吊って平面研削盤へ運んでいるとき、同部品がハッカーから外れて落下し左側頭部に当たり脳挫傷により死亡したと推定される。	11301	4	1～9
2011	3	10 11	被災者が単独作業にて天井クレーン（定格荷重2.8トン）を用いて玉掛作業中、荷の鋼板（幅1メートル、長さ2メートル、厚さ4.5ミリメートルの鋼板31枚の束、総重量約2トン）をハッカーにてつり上げた際、荷が滑り、被災者が滑った荷と隣接して積み上げられていた鋼板との間に腹部を挟まれたもの。	11209	4	10～ 29
2011	8	15 16	会社敷地内において、被災者は一人で塗装作業が終わった耐震用外壁材（362センチ×200センチ×2センチ+補強材 重量1.5～1.8t）をホイスト式橋形クレーン（無線操作式 つり上げ荷重5t）を使用して移動させていた。16：00頃、被災者が作業を行っていた場所から大きな音がしたため、同僚が駆けつけたところ、耐震用外壁材の下敷きになった被災者を発見した。	11209	4	1～9
		11	工場の機械設備移転のため、高さ8.5mの工場の搬出口に移動式クレーンでつり上げた搬器を横付けして、機械の搬出を被災者を含め5			10～

2011	3	～ 12	名で行っていたところ、重さ約3.5tの機械を搬器に乗せた際、搬器が傾き機械と共に被災者が墜落したものの。	30302	1	29
2011	6	～ 16	下水道工事に使用する鉄板（長さ約3メートル、幅約1.5メートル、厚さ約2.5センチ、重さ約1トン）を移動式クレーン（定格荷重2.9トン）で吊っていたところ、吊り具のクランプが外れて被災者が鉄板の下敷きとなった。	30199	4	1～9
2011	3	～ 14	（092）天井クレーン（つり上げ荷重4.87t）で荷（「コンポデッキ」約400kg）をつり上げ、ハッカーによる1点吊りの状態で荷を移動中、荷がハッカーから外れ落下し、被災者に激突した。	11209	4	1～9
2011	11	～ 9	工事現場において、移動式クレーン（つり上げ荷重25トン）を用いて単管パイプ20本をつり上げる作業を行っていたところ、当該単管パイプが落下し労働者に激突した。	30105	4	30～ 49
2010	12	～ 11	道路高架橋の橋脚工事における鉄筋組み立て作業において、移動式クレーンにより、異形鉄筋（長さ12m、径5cm、重量190kg）4本を補助つり具及びベルトスリング（ナイロン製）を用いてつり上げたところ、その内の1本のベルトスリングが補助つり具のフックから抜け、異形鉄筋が落下し、玉掛者である被災者に当たったもの。補助つり具は、鉄筋5本を別々につることができるようになっていた。	30106	4	10～ 29
2010	11	～ 12	建設機械の部品を製作中、被災者は天井クレーンを使用してドーナツ状（外径148.5cm、内径113cm、厚さ4cm）の鉄板2枚を重ねて吊り上げ作業中、鉄板がハッカーから外れ、吊り荷の下付近にいた被災者の背部に落下したものの。	11301	4	10～ 29
2010	8	～ 15	地上14階地下1階建てビルの新築工事現場において、基礎杭打設用の立坑内の泥水置換に使用した泥水排出用鉄製パイプ（長さ約11m、直径15cm、重量約175kg）1本をクローラクレーンで坑内から吊り上げ、同パイプの端を地面に接地させ並べようとした際に、同パイプを玉掛けしたワイヤロープがフックから外れ、倒れてき	30201	4	10～ 29

			た同パイプが被災者の頭部に当たったもの。			
2010	7	10 ～ 11	ドラグ・ショベル（クレーン仕様で作業）のクレーンフックに、ワイヤーロープ及び鉄板吊金具（以下「金具」という。）を掛けて鉄板を吊り、トラック荷台から地上に降ろす作業において、鉄板の端を押さえて荷振れ防止を行っていた被災者が、トラックと鉄板の間に立ち入ったところ、鉄板が地上に降ろされた時にフックの外れ止めが破損して金具から外れ、トラック側に倒れたため、鉄板とトラックの間に挟まれた。	30107	7	10～ 29
2010	6	22 ～ 23	パレットに積んだ製品（鋼材、重量約2.6t）を天井クレーンで移動する作業において、かかり代が不十分なパレット端部に玉掛け用具をかけてつりあげたため、荷から玉掛け用具（チェーン）が外れ落下して被災者に激突し、その勢いで他のパレット（鋼製）に頭部を強打したものの。	11009	4	30～ 49
2010	3	8 ～ 9	移動式クレーンを使って鋼矢板を移動させる作業において、玉掛け作業者1名が鋼矢板を玉掛けするため、同クレーンで吊った吊り治具（重量約500kg）を少し下げるようオペレーターに合図したところ、オペレーターは、自由降下の操作により吊り治具を下げたため、吊り治具が急降下して、玉掛け作業者の頭部を直撃したものの。	30309	4	10～ 29
2010	2	13 ～ 14	合板22枚（合板1枚の大きさは縦91cm、横182cm、厚さ1.2cm、重量12.5kg、計275kg）を移動式クレーン（つり上げ荷重4.9t）を用いてつり上げて荷を移動中にバランスが崩れて玉掛けロープから合板が滑り落下し、その一部が近くでつり荷の誘導を無線で行っていた被災者に当たったもの。つり荷の合板22枚は結束せず2本の繊維ロープ（それぞれ長さ3.9m、幅4cm）を用いて玉掛けを行ったもの。	30202	4	10～ 29
		8	木造家屋の建て前初日、移動式クレーン（つり上げ荷重16t）で2階の床材合板約30枚（大きさ＝畳大。約600kg）を重ね、ナイロンスリング（目通し1本づり）を2本で玉掛けしてつり上げ、2階			

2010	1	～ 9	部分に降ろそうとしたが、先行で組立てていた足場の建地に引っ掛かり、スリングが緩んだ。そのためばらばらと落下した床材が、下で別作業をしていた被災者に次々と激突し死亡した。	30202	4	1～9
2009	9	～ 18	120t天井クレーンの玉掛け用具（つりビーム重量5t）を盤木の上に置き、ワイヤロープ等を取り外す作業を行っていたところ、玉掛け用具が倒れて作業者が下敷きとなった。	11501	5	10～ 29
2009	6	8 ～ 9	排ガス管（重量：約877kg）塗装の段取り中、工場内の天井クレーン（定格荷重20/5t）で排ガス管をつり上げる際、片側に使用していた玉掛け用具（ねじ式クランプ）が外れ地上に落下した。落下後、はねて被災者に激突した。その後、入院先にて死亡した。	11209	4	10～ 29
2009	4	～ 14	13 船体ブロック用の部材をクレーンを使用してつり上げていたところ、 14 つりチェーンが切断して部材が落下した。部材は落下したあと被災者に向けて転倒し、被災者は部材にはさまれた。	11501	4	10～ 29
2009	1	10 ～ 11	被災者が、船体ブロックの部材（重量約900kg）を玉掛け及びリモコンによるクレーン操作を行い、この部材をつり上げて反転させようとしたところ、一本つりしていたつりクランプが外れて、この部材が落下し被災者に激突した。	11501	4	1～9
2009	11	9 ～ 10	複合施設建築現場の1階大ホールの舞台部に反射板縦軸の上部ブラケットをホイスト（定格荷重240kg）を使用し取り付け作業中、ホイストフックの外れ止めが不良であったため、玉掛けワイヤロープがフックから外れ、ついていた上部ブラケットが落下し、下で作業の打ち合わせを行っていた被災者に当たった。	30309	4	10～ 29
2009	9	9 ～ 10	被災者を含む3人で自社倉庫に設置している天井クレーン（重量約4t）を移動式クレーン（51t）を使用して移設する作業を行っていたところ、玉掛け用ワイヤロープが切断したため、ついていた天井クレーンが落下し、高所作業車の作業床及び作業床に搭乗していた被災者に当たり、被災者が作業床とともに2階床に転落し、さらに1階コンクリー	30301	4	50～ 99

			ト上に転落した。			
2009	5	9 ～ 10	RC造分譲マンションの新築工事現場にて、ラフタークレーン（12t）を用いて、FRP製型枠パネル30枚重量約500kをスリングベルトで2点で絞り掛けして、搬出のために4tトラックに積載しようとした。作業半径約8mの位置でトラック荷台上につり下げようとした時、スリングベルトから荷が滑り落ち、荷台上で待機していた被災者に当たった。	30201	4	1～9
2009	2	14 ～ 15	防災工事のため、法面掘削を行う準備作業として、地山の立木の伐採や切り株の除去作業において、被災者は、親綱にロリップを取り付け、切株の伐根作業を行っていたところ、親綱からロリップが外れ、そのまま法長で約30m（高さ約23m）滑落し死亡した。被災者の作業箇所は、法頭から法長で3.5mの位置であったが、親綱の長さは8mであった。	30199	1	30～ 49
2009	2	13 ～ 14	倉庫内でエンジン発電機（重量1.18t）を2tダンプカーに積み込むため、天井クレーン（定格荷重0.9t）でつり上げたところ、直径9mmの玉掛用ワイヤロープが切断し発電機が落下、その反動で発電機が被災者の方に倒れこみ下敷きになった。	30110	4	10～ 29
2009	12	10 ～ 11	橋上部工事現場において、橋面上の足場に使用した単管の余りを地上へ降ろす作業を行っていたところ、タワークレーンでつっていた単管の束（長さ約1.5～2m、21本）が風に煽られ橋面の仮設手すり（高さ2m）に当たり、その反動で玉掛用具（ナイロンスリング、2点つり）から次々と抜け落ち、89m下の地上で荷受けの準備をするために歩いていた被災者を直撃した。	30199	6	50～ 99
2009	2	17 ～ 18	材料試験用設備解体のため、天井クレーン（20t、無線操作式）でH鋼を2点つりでつり上げて約7.2m下に移動させようとしたところ、玉掛けワイヤーの片側がフックから外れて一本つりになり、その勢いでもう1本の玉掛けワイヤーが切れてH鋼が落下した。その際、つり荷の下にいた被災者がH鋼に付いていたワイヤロープに叩かれ、2.4m下に墜落した。	11209	4	1～9

2009	1	10 ～ 11	<p>建築用資材であるH鋼の組立工程において、天井クレーンでH鋼を立てたところ、H鋼が荷ぶれを起こし、逃げ場のなかった被災者側に倒れ下敷きになった。</p>	11209	5	10～ 29
2009	9	16 ～ 17	<p>建設工事で使用した敷鉄板（1.5m×6.0m×厚さ2cm、重量約1.7t）を積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）で運搬するため、作業者が敷鉄板に玉掛けし、当該クレーンでつり上げ、荷台に載せる作業を行っていた。その補助作業を行っていた被災者が、荷台後部付近の地面に立って敷鉄板を押さえていたところ、敷鉄板の穴から玉掛用具（フック付きワイヤロープ）のフックが外れ、敷鉄板が倒れて下敷きとなった。</p>	40301	4	10～ 29
2008	6	9 ～ 10	<p>鉄骨製架台（重量0.54t）を移動式クレーン（車両積載形トラッククレーン、つり上げ荷重2.52t）の荷台に積み込むため、台付ワイヤロープ（径6mm、端部と端部をクリップで結束したもの）を玉掛に流用して当該移動式クレーンを用いて架台をつり上げたところ、当該ワイヤロープの端部がクリップから抜けたため架台が落下して横倒しになり、付近にいた玉掛け者が架台の下敷きとなった。</p>	10109	4	30～ 49
2008	7	8 ～ 9	<p>消波ブロック製作工事現場において、消波ブロック用の型枠を解体するために高さ2mの足場上で型枠に玉掛用ワイヤロープを掛けてドラグ・ショベル（移動式クレーン仕様）でつり上げた。その時、突風により型枠が動揺して玉掛用ワイヤロープが外れるとともに被災者が足場から転落し、落下してきた型枠（1.3t）の下敷きになった。</p>	30111	4	10～ 29
2008	6	9 ～ 10	<p>建造船の甲板上において、約3tのアンカー用のチェーンの取り付けを行うため、クレーンでチェーンを玉掛ワイヤロープで2点づりして巻き上げ装置に設置する作業をしていた。巻き上げ装置のギア部の所定位置にチェーンが噛み合っていなかったため、再度、位置あわせをするためにチェーンを持ち上げようとクレーンで巻き上げたとき、ギア部にチェーンが引っ掛かり、玉掛ワイヤロープの1本が切断してチェーンが被災者に落下した。</p>	11501	4	100 ～ 299

2008	5	16 ～ 17	被災者が、天井クレーン（定格荷重2.8t）を用いて鉄板（200cm×120cm×厚さ2.8cm、重量約520k）をトラックに積み込む作業中、玉掛用具（リフティングマグネット、最大使用荷重500kg）から鉄板が落下して鉄板の下敷きになり死亡した。	11209	4	1～9
2008	9	10 ～ 11	資材置場で敷鉄板（巾3.05m、長さ1.53m、厚み2cm、重さ732kg）を整理するため、ドラグ・ショベルのバケットに取り付けられたフックに玉掛けワイヤロープを取り付けて、敷鉄板につりクランプを用いて玉掛けを行った。ドラグ・ショベルを走行させて敷鉄板を移動中、敷鉄板がつりクランプから外れて地上に落下した。その後、敷鉄板を誘導していた被災者に倒れた。	30199	4	1～9
2008	8	9 ～ 10	被災者は、構内の施設改装に伴う岸壁に設置されているクレーンのレールの一部撤去作業を行うにあたり、移動式クレーンを用いて取り外したレールを輸送用トラックに乗せる作業をしていた。専用クランプによる1点づりでレールのつり上げを開始したところ、クランプからレールが外れてレールの下にいた被災者の身体にあたり死亡した。	11501	4	300 ～ 499
2008	9	15 ～ 16	教室棟新築工事において、26tラフテレーンクレーンを使用して、土留用H型鋼（400×400mm×11m、約1.7t）打ち込みのため、補巻きフックでH型鋼をつり上げ、主巻きフックにつっていたバイブロハンマーに取り付ける作業を行っていた。その際、玉掛用ワイヤロープが切断し、ラフテレーンクレーンの運転席にH型鋼が激突してオペレーターが死亡した。	30201	6	1～9
2008	7	10 ～ 11	バンドソー（鋼材切断機）によるH鋼の切断作業終了後、H鋼（長さ9m、幅30cm、高さ30cm、重量837kg）をローラーテーブル上から天井クレーン（つり上荷重2.8t、無線操作）でつり上げたところ、把持していたつりクランプ（2本づり）が外れ、H鋼が被災者に激突して死亡した。	11209	4	10～ 29
		16	約10m四方、深さ6.8mの雨水ピット底部のコンクリート打設を行うにあたり、コンクリートの入ったホッパー（容積約0.8立方メートル）を			

2008	10	～	ドラグ・ショベルを用いてつり上げてピット内に降ろしていたところ、ホッパーをつっていたワイヤロープが切断し、ホッパーが落下して被災者に激突した。	30110	4	1～9
2008	9	11 ～ 12	移動式クレーンを使用して繊維ベルトスリングを用いて、束ねられたPC橋台配筋用の鉄筋8本を1本づりし、つり込み作業を行っていたところ、フックに掛けたスリングのアイ部の先端が切断した。鉄筋は足場の一部を破損して落下し、約12m下の地上部にいた被災者を直撃して死亡した。また、足場で作業していた配筋工が破損の際に墜落して負傷した。	30105	4	1～9
2008	2	14 ～ 15	子会社の工場内において、一人で、500tプレス（高さ4m）の清掃・修理（中古品の再販のため）を行っていた。天井クレーンでつり上げていたプレス天端の柵が落下し、本体から取り外して床に仮置きしてあったワーク置き台に当り、当該置き台が倒れて下敷きとなった。	80209	4	1～9
2008	11	11 ～ 12	被災者はプレス機にセットする金型を準備するため、単独でクレーンを運転して2段に積まれた金型を台の上に置き、1段目の金型の鑄込みフックから玉掛けワイヤロープを外して2段目に積まれた金型の鑄込みフックに取り付けるため巻き上げ操作をしていた。その際、玉掛けワイヤロープが1段目の金型の鑄込みフック一箇所に引っかかり、1段目の金型が傾いたため2段目に積まれた金型が滑り落ちてきて下敷きとなった。	11502	4	1000 ～ 9999
2008	6	9 ～ 10	足場材をトラックに積載して建設現場に到着した被災者は、トラックの足場材を現場の移動式クレーン（70tクローラクレーン）を使用して現場の作業者ととも荷降ろしする作業に取りかかった。被災者と作業者は、足場板50枚を玉掛して足場板をクレーンで高さ約15mの位置までつり上げたところ、つり上げた足場板が落下し、下にいた被災者と作業者に激突して被災者が死亡した。	40301	4	30～ 49
			事務所新築工事現場において、基礎の埋め戻しのため、ダンプトラック及びドラグ・ショベルの進入路をつくるための鉄板（1.5m×6m、重			

2008	11	10 ～ 11	さ1.5t) を敷く作業を行っていた。ドラグ・ショベルのバケットに取り付けられたフックに玉掛け用具を使って鉄板をつり上げ（一点づり）、地中梁に鉄板を仮置きしようとしたところ、玉掛け用具のクランプから鉄板が外れて玉外しのため近くにいた被災者側に鉄板が倒れてきて地中梁と鉄板の間にはさまれた。	30201	4	1～9
2008	12	13 ～ 14	被災者は一人で資材置場の鋼製の柱（50×50×1200cmの四角柱、重量約8.7t）を、橋形クレーンを用いて、1本つりの状態で90度回転させる作業を行っていた。その際、柱を回転するために使用していたチェーンが切れてその反動で柱が転がり、被災者に激突した。柱に激突された被災者は、その衝撃で、後部にあったクレーンの脚部分に身体を強打した。	11209	4	30～ 49
2008	6	10 ～ 11	建築工事に使用するH型鋼材をショットブラストに掛けるため、長さの違う（1.8～4.8m）H型鋼材を11本（約1.9t）積み重ねて玉掛け用チェーン（長さ約5.5m、リングサイズ（長さ6.7cm、幅4.2cm、太さ1.4cm））をH型鋼材の中央部一箇所に掛けて天井クレーン（つり上げ荷重2.8t）でつり上げて移動していたところ、つっていたH型鋼材がずり落ちて下敷きになった。	11209	4	10～ 29
2008	4	16 ～ 17	乾燥場の増築工事において、基礎の生コン打設時に生コン車搬入路用に使用していた鉄板4枚のうち1枚(1500mm×3000mm×20mm、約800kg)を積み下ろし中、1点つりの玉掛用具から鉄板が外れ被災者に直撃して下敷きとなった。	30202	5	30～ 49
2008	7	19 ～ 20	営業所倉庫において、被災者が天井クレーンを用いて2段積まれたパレット（鉄製でガラスを固定用のもの）のうち、2段目のものを移動させようとしたところ、つっていたパレットが落下して下敷きとなり死亡した。	80209	4	30～ 49
		13	工場内で配管の溶接作業をしていたところ、仮置きしてあった別の配管によって作業場所が狭隘となっていたため、この配管を移動させ作業場所を確保しようとして、工場内に設置してあるつり上げ荷重1t			

2008	4	～ 14	以下の天井クレーンを使用して当該配管をつり上げたところ、玉掛用ワイヤロープの先端に取り付けてあるフックが外れて配管が落下し、直撃して死亡した。	11209	4	1～9
2008	9	11 ～ 12	被災者は、同僚作業員2名と事業場の資材置き場において、建設現場で使用が終わり回収したくない打ち機用の敷鉄板（重さ約1t）4枚を貨物自動車からくわい打ち機を用いてつり上げ、荷卸し作業を行っていたところ、敷鉄板をつり上げる際に使用していたフック付きチェーンが敷鉄板から外れ、敷鉄板を地面に降ろすために誘導していた被災者に激突して死亡した。	30109	6	10～ 29
2008	10	11 ～ 12	工場内において、H型鋼材（約1.36t）の清掃作業中にH型鋼材につりくランプ1個を取り付けてつり上げたところ、H型鋼材がつりくランプから外れて落下して下敷きとなった。	11209	4	1～9
2008	1	8 ～ 9	被災者（資材置場専従者）は共同作業員2名と自社構内の資材置場において推進工法用油圧ポンプユニット（推定重量2～3t）を工事現場に運搬するため、橋形クレーン（床上操作式2.8t）で車両積載形トラッククレーン（以下「トラック」）に積み込み作業中に被災者が玉掛けしたワイヤロープ全4本が切断し、同ユニットがトラック荷台に落下後、横に倒れて地上で橋形クレーンを操作していた被災者が下敷きとなった。	30199	4	10～ 29
2008	5	11 ～ 12	被災者は同僚が操作する積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）から遊漁船（約3.4t）を荷卸し作業中、つり上げ中の遊漁船の船首側の下方に入り台座を動かしていたところ、玉掛用繊維ベルトがずれないように緊結していたナイロンロープ等が切れて繊維ベルトが船尾側に滑り、船首側が落下したことから、被災者が船底と台座にはさまれた。	40301	6	10～ 29
		14	ニッケル工場残渣処理建屋において、溶融硫黄の受け樋の取り付け作業中、受け樋500kgをつり上げ荷重2tの天井クレーンにて二階			

2007	5	～ 15	部分までつり上げ、一旦停止させていたところ、玉掛け用ワイヤロープ2本の内1本が切断し、荷が振れ落ちて、荷の下で受け樋取り付け位置のフランジの清掃作業を行っていた被災者が、受け樋と2階床面にはさまれた。	30302	4	1～9
2007	12	～ 12	石材置場において、移動式クレーン搭載型のトラックを持ち込み、庭石用の石材（重さ約1 t）を搬出する際、石材に巻かれたまま置いてあった他社のつりチェーンを自社の玉掛ワイヤーに掛け換えるため、つりチェーンを移動式クレーンのフックに巻き付け、約50 cm つり上げた状態で石材の下に潜り込みワイヤーを通していたところ、つりチェーンがフックから滑って外れ、被災者が落下した石材の下敷きになった。	30199	4	1～9
2007	4	～ 10	林道開設工事におけるガードレール設置作業において、被災者がガードレール2枚を車両系建設機械（掘削用）のバケットに溶接されているフックに繊維ロープで1点づりをしてつり上げ、貨物自動車に乗せようとしたところガードレールが貨物自動車のあおりに引っかかり、繊維ロープの位置がずれたため、被災者がその位置を手で修正しようとしたところ、ガードレールが繊維ロープから滑り落ち、激突した。	30106	4	1～9
2007	2	13 ～ 14	工場内において、集じん機ダクトエキスパンション（鋼製、円筒形（内径2.63 m、外径3.13 m、高さ1.06 m、重量約1 t））を、天井クレーン（つり上げ荷重2.8 t）2台でつり、反転させた後、荷を降ろしているときに一方のスリングベルトが切断してつり荷が落下し、付近にいた被災者がつり荷と作業定盤の間にはさまれた。	11209	4	10～ 29
2007	5	～ 18	H鋼（H200×B200×T12×L4150、重量約165 kg）をホイスト式天井クレーン（床上操作式、つり上げ荷重2.8 t）を用いて出荷のため10 tトラックに積み込み作業を行っていたところ、つりクランプから荷が外れクレーンを操作していた被災者に	11209	4	1～9

			当たった。荷はつりクランプ1個を用いた1点づりであった。			
2007	2	15 ～ 16	被災作業者が長さ11.5m、重さ約2tのH鋼を床上操作式天井クレーンを使用してつり上げたところ、玉掛用具として使用したクランプ2つから鋼材が外れ落ち、被災者の上に落下した。	11209	4	10～ 29
2007	12	10 ～ 11	土木工事現場でのシートパイル打設において、移動式クレーンでシートパイルを立てづりしようとして、地面から持ち上げる途中のシートパイルが斜めに立ち上がった状態で玉掛け用具が外れたため、シートパイルが落下し、玉掛け作業者を直撃した。	30110	4	10～ 29
2007	9	13 ～ 14	海岸の災害復旧工事現場において、バイブロハンマー+ウォータージェット工法により土留用仮設鋼矢板の打ち込み作業を行っていた際、仮設鋼矢板にウォータージェット噴射管を取り付けようとクローラクレーン(50t)で当該噴射管をつり上げていたところ、玉掛け用具(フック付チェーン)が当該噴射管から外れ、落下した噴射管が下方にいた被災者を直撃した。	30111	4	10～ 29
2007	1	14 ～ 15	溶接加工を終えた搬送機械の鋼製架台(長さ4m、高さ1m、重さ470kg)を天井クレーン(5t、つり具はチェーン)でつり、仕上げ場所へ移動中、つり荷が落下した。	11209	4	10～ 29
2007	12	9 ～ 10	設置された鍛造プレス(1600t)の修理のため、プレス機械のディスクブレーキ(重さ420kg、直径1m)を同工場に設置された2.8t天井クレーンを用いて、約1.9mの高さにつり上げ、その下でボルト締め作業を行っていたところ、ワイヤロープが外れ、ディスクブレーキの真下で作業を行っていた被災者に落下した。	11702	4	10～ 29
2007	5	15 ～ 16	高さ約27m、直径1.3mの精製装置の内部にある触媒の取替工事において、被災者がエアラインマスクを着用して、窒素パージしてある同装置の頂部マンホールから約14mの位置に降り、そこにあった触媒を積載させるための鉄製グレーティングの一部(縦70cm横40cm)をつり上り荷重230kgのホイストで頂部につり上げようとしたところ、途中でホイストのフックからはずれて被災者に激突し	30309	4	1～9

			た。			
2007	1	12 ～ 13	製本用機械を屋外から工場2階に直接搬入するため2階の物品搬入口に鉄板を設置し、移動式クレーンでつり上げた機械を内部に引き入れようとしていた。機械を鉄板上までつり上げた時機械に取り付けられていた玉掛け用具のアイボルトの1個が台座から抜け、それを直した直後もう1個のアイボルトも台座から抜けて鉄板に落下、鉄板上にいた運送会社の作業員2名と被災者が鉄板ごと地上に落下した。	10702	4	100 ～ 299
2007	1	11 ～ 12	工場内で、つり上げ荷重2.8tの床上操作式天井クレーンを使用し、重さ約1tの長方形の鉄骨製荷台を繊維ベルトで1本づりをして移動させ、同荷台を床に付け平面状に倒そうとしたところ、荷がぶれて繊維ベルトが切れたため、クレーンを操作していた作業員の方向に倒れ、下敷きになった。	11209	5	1～9
2007	7	15 ～ 16	基礎工事用機械を使用して、基礎工事を行い、終了後、基礎工事用機械の解体作業を開始し、リーダを置く架台を移動するため、架台に玉掛ワイヤロープ1本を掛け、基礎工事用機械付随のフックに玉掛ワイヤロープを玉掛し、つり上げたところ玉掛ワイヤロープが切断し、架台が落下、被災者に激突した。	30199	4	30～ 49
2007	5	15 ～ 16	製油所の定期補修工事において、セラミックボール入りドラム缶（250kg）を塩素除去塔の頂上ステージ（高さ約13m）から地上へ移動式クレーン（25t）で運搬する作業中、ドラム缶を約2mつり上げたところドラム缶が落下し、合図をしていた被災者に当たった。	30309	4	1～9
2006	10	8 ～ 9	被災者は、コンクリートブロックの製造において、コンクリートブロックの型わくの解体作業中、型わくのふた（0.59トン）につりチェーン（0.5トン用×2）にて玉掛を行い、クレーンを用いて型わくのふたを床に降ろしていたところ、つり具のシャックル部（0.5トン用）のピンが破損し外れたため、型わくのふたが倒れ、型わくのふたの下敷きとなった。	10901	5	10～ 29
			アスファルト合材を収容するサイロの設置工事現場で、バケットエレ			

2006	12	8 ～ 9	ベーターに使用する鉄骨材（重さ約4トン）を移動式クレーン（つり上げ荷重25トン）を用いて吊り上げようとしたときにナイロンスリングが切断して落下し、近くで玉掛け作業をしていた被災者が下敷きとなった。	30302	4	100 ～ 299
2006	11	9 ～ 10	ハッカーにより2点で玉掛けされた鉄製部材（全長560センチメートル、全幅62.8センチメートル、厚さ8センチメートル、重さ1.67トン）2枚を、被災者が10トン天井クレーンで約1.4メートルの高さに吊り、荷の側でコントローラーによりクレーンを操作しながら、水平移動させて運搬していたところ、約14.5メートル進んだ地点で、吊っていた部材がハッカーから落下し、被災者はその下敷きとなった。	11301	4	100 ～ 299
2006	12	8 ～ 9	アスファルト合材を収容するサイロの設置工事現場で、ベーターに使用する鉄骨材（重さ約4トン）を移動式クレーン（吊り上げ荷重25トン）を使用して吊り上げようとしたときにナイロンスリングが切断して落下し、近くで玉掛け作業をしていた被災者が下敷きとなった。	30302	4	100 ～ 299
2006	12	15 ～ 16	船体ブロック工場において、組み合わせたブロックを別のブロックと組合すため、当該ブロックを天井クレーン（30トン、無線操作式）を用いて吊るため、一方を2本のワイヤとクランプで吊り、もう一方をレバーブロックとクランプで吊って50度の角度をつけて吊り上げていたところ、レバーブロックのチェーンが破断し、当該ブロックが労働者に激突した。	11501	6	1～9
2006	9	15 ～ 16	ダムコンクリート打設作業のため、被災者はケーブルクレーンで運搬されたコンクリートバケットの生コンクリートを型わくに流し込む作業を行っていたが、バケットが空になったので、有線トランシーバーでケーブルクレーン運転者に巻上げの合図を送り、コンクリートバケットを吊り上げたところ、コンクリートバケットの分銅部分がケーブルクレーン搬器のフックから外れ、バケットに激突された。	30108	4	1～9

2006	10	8 ~ 9	雨水管渠布設工事において、土止め支保工に使用するシートパイル16枚1束（推定約400kg）を移動式クレーン仕様のドラグ・ショベル（つり上げ荷重1.7t）で吊り上げ旋回したところ、荷の1ヶ所を目通し吊りした玉掛用ワイヤロープがフックに掛けたアイ部分で切断し、荷の片側が地面に落下した後、もう片方が荷の介錯を行っていた被災者に向け飛来したため、被災者が荷の下敷きになった。	30110	4	10~ 29
2006	10	17 ~ 18	テレビ工場で使用する機械部品の下部の油を拭き取るため、同部品をクレーン（最大荷重2.8トン）で吊り上げていたところ、吊り上げるための玉掛ワイヤが切断し、同部品が被災者の方に倒れてきた。	11709	4	30~ 49
2006	9	9 ~ 10	給油所新築工事に伴う造成現場で、土止用のL型擁壁（重量約3t）を設置していた。事業主がドラグ・ショベルを運転して当該L型擁壁を吊り上げ、約2m下方の設置箇所へ置くために機体を旋回させた時にドラグ・ショベルのバケットのフックに掛けていた玉掛け用ワイヤロープが切れたため、L型擁壁が落下し、下方で待機していた被災者に激突した。	30199	4	1~9
2006	10	15 ~ 16	工場内において、鉄製の胴板（直径約4000mm、長さ2200mm、重さ約55トンの筒状のもの）を移動させるため、ワイヤロープ二本で玉掛けし、天井クレーンで吊り上げ走行させていたが、荷の状態が不安定になったことから、一時的に降ろそうとした。荷を降ろす箇所にバタ角を敷こうと、被災者が荷の直下に立ち入った時に荷が落下し、被災者が荷の下敷きとなった。	11209	4	100 ~ 299
2006	9	9 ~ 10	下水道管移設埋設後の覆工板撤去に伴う覆工板主桁及び桁受ボルトの取り外し中、ドラグ・ショベル（移動式クレーン仕様付き）で覆工主桁（H鋼-300mm×300mm、長さ3.3m 重量370kg）を吊クランプ（1本掛）にて吊り上げ、旋回したところ、吊クランプが外れ、覆工主桁が落下し、桁受けボルトを取り外していた被災者にあたった。	30110	4	10~ 29
			工場内において機械加工の終わった金属製品（約1.5m×3m×			

2006	9	9 ～ 10	0.7m/重さ約1.5トン)を3本の玉掛ワイヤで吊り、クレーンを使用して出荷位置に移動させた。3本のワイヤのうち1本だけ長く、ワイヤの長さをそろえるために荷の下部において使用していたシャックルのピンを外したところ、荷の一方が落下し、被災者がはさまれた。	11209	4	1～9
2006	9	15 ～ 16	被災者が台車のフレームをひっくり返そうと天井クレーン(つり上げ荷重2.8t)で吊り上げたところ繊維ロープが切れ当該フレームとコンクリート床面に被災者がはさまれた。	11209	4	1～9
2006	9	14 ～ 15	トラックから鉄骨廃材を荷卸しする作業中、リフティングマグネット(ドラグ・ショベルのベースマシンにマグネットのアタッチメントを取付け、吸付けた鉄くず等を運搬する専用機)のアタッチメントのフックにかけた玉掛け用ワイヤロープで当該廃材を玉掛けし、一点吊りで吊り上げたところ、廃材が振れて先端がトラックのヘッド上で待機していた被災者に当たった。廃材が振れるとともに、玉掛け用ワイヤロープは切断した。	80109	6	1～9
2006	8	14 ～ 15	自社整備工場において、被災者が移動式クレーン(10t)で吊り上げたカウンターウエイト(2.2t)を車両系建設機械(ブレーカ)に取り付け作業中、カウンターウエイトに固定されていた玉掛用のアイボルトが破断したため、カウンターウエイトが被災者の上に落下し、下敷きとなった。	30106	4	30～ 49
2006	7	14 ～ 15	金属製の空ドラム(電線ケーブルを巻くためのもので、直径2.4m、重量500kg)を小型移動式クレーン(トラッククレーンで吊上荷重2.9t)で荷台に積み込み中、ドラムから玉掛け用のハッカーを外し、ジブを旋回させたところ、ハッカーがドラムの一部に引っかかり被災者側に倒れ、ドラムと荷台のアオりに挟まれた。クレーン操作はリモコン式で、被災者が玉掛けを兼務していた。	40301	5	30～ 49
			被災者が天井クレーン(床上操作式、定格荷重2.8t)を用いて重量1tの鉄板1枚を10tトラックに積み込む作業中、鉄板に開けら			

2006	5	15 ～ 16	れたねじ穴4箇所のうち対角線上の2箇所にM16のアイボルト2個をねじ込み、2本つり用のフック付きチェーンスリングのフックを掛けて、高さ約2mまで吊り上げたところ、手製のアイボルトが鉄板から抜け、バランスを崩したつり荷が被災者に激突した。	40301	4	10～ 29
2006	4	14 ～ 15	貨物船に取付けた制限荷重30tの揚貨装置を使用して岸壁から1個30kgの米袋42袋分を入れたスリングバッグを貨物船内に積込むため、スリングバッグ8袋分を巻き上げて旋回していたところ、1つのスリングが切れて落下し、船倉にいた被災者に当たった。	11501	4	10～ 29
2006	4	9 ～ 10	民家の石塀設置工事において、馬足場の上（高さ133cm）で塀のモルタル塗りを行っていたところ、小型移動式クレーンによりクランプでつり上げられていた御影石（重量200kg）が、クランプから外れて落下し、被災者を直撃し、馬足場から地面に墜落した。	30209	4	1～9
2006	3	11 ～ 12	積載形トラッククレーン（最大つり上げ荷重2.9トン）を用いて、車両系建設機械（自重1.96トン）をつり上げたところ、ナイロンスリングが切れ、落下した車両系建設機械のキャタピラが積載形トラッククレーンの荷台あおりに当たったため、車両系建設機械が横倒しとなり、被災者が落下した車両系建設機械と地面の間に挟まれた。	30209	4	1～9
2006	4	14 ～ 15	社屋新築工事の基礎工事において、敷地整備に敷いていた敷鉄板（1枚約1.6トン）をドラグ・ショベル（つり上げ最大荷重600kg）のバケットのフックにワイヤロープ（先端にシャックル及び外れ止めが壊れたフック付）を掛け、これで敷鉄板を吊り移動させ、地上に卸したところ敷鉄板がフックからはずれ、敷鉄板が予定の反対方向に倒れた。倒れた時に敷鉄板の舵をとっていた作業者が、敷鉄板の下敷きになった。	30201	5	10～ 29
2006	2	9 ～	構内で鉄板を移動するために、作業員6名でトラッククレーン（吊上げ荷重15t）を使用して、鉄板3枚（長さ8.6m、幅2.3m、厚み14.5mm鉄板1枚、長さ8.85m、幅1.9m、厚み1	50202	4	10～

		10	4. 5 mm鉄板2枚、総重量6トン) をトレーラーに積み込む作業をしていたところ、玉掛け用具のハッカー4つの内1つが外れ、吊り荷が落下し、作業員1名がその下敷きとなった。			29
2006	2	11 ～ 12	敷き鉄板(1. 54m×6. 12m、厚さ2cm重さ1. 6t) をドラグ・ショベル(0. 45立方メートル) で吊り上げ、ダンプの荷台に積み込もうとしたところ、玉掛けチェーンのフックから鉄板が外れ、荷台上の被災者が、倒れてきた鉄板とダンプの荷台のアオリと鉄板に挟まれた。	30106	6	1～9
2006	1	11 ～ 12	被災者は図面に従ってH鋼に穴あけの位置をケガキする作業を行っていた。被災者がクレーン(つり上げ荷重2. 8トン) で吊り上げたH鋼(長さ750センチ、幅90センチ、重さ1742キロ) を回転させようとしたところH鋼がクランプからはずれ被災者に激突した。	11209	4	10～ 29
2006	2	9 ～ 10	工場内のヤードで、コンクリート製のくい(60cm×13m重さ4. 8トン) 2本をクレーン(15トン) で移動中に、吊り上げていたワイヤが切れ、くいが落下し、その下敷きになった。	10901	4	30～ 49
2006	2	1 ～ 2	被災者がボックス状鉄骨材(1666*75*75cm、14. 8t) をつり上げ荷重10tの片脚橋型クレーンを使用してつり上げ移動していたところ、玉掛け用ワイヤロープ(径20mm、長さ6m) 2本が破断し、落下する当該鉄骨材に激突された。	11209	4	10～ 29
2006	1	11 ～ 12	橋梁下部工事において地下約14mの場所で深礎杭の中間帯鉄筋組立作業中、移動式クレーンにより作業場所へ運ぶ途中で玉掛け用具が破損し、約9mの高さから作業床へ荷が落下して、被災労働者に当たった。(運搬中の材料は長さ5710mm、直径29mmの異形鉄筋の両端を曲げたものを42本束ねたもので全体の重量は約1. 2t。)	30105	4	10～ 29
2005	8	14 ～ 15	鋼材3本を束ねて2カ所をつりクランプで固定し、クローラクレーンで高さ10mまでつり上げたところ、つりクランプが外れて鋼材が落下し、被災者に激突した。	30201	4	10～ 29
			鉄骨柱の溶接作業中、ホイスト式天井クレーン(定格荷重10トン) を			

2005	10	15 ～ 16	使用して鉄骨柱（重量2トン）の向きを変えるため、クランプ1個を中心に掛けてつり上げようとした際、つり荷が被災者の方に移動し激突した。	11209	6	30～ 49
2005	12	11 ～ 12	移動式クレーンで分電盤（重さ250kg）の荷揚げ作業を行っていたところ、2点つりしていたアイ付きベルトスリングよりバランスを崩して分電盤が落下し、分電盤をトラックで輸送してきた被災者に激突した。	40301	4	10～ 29
2005	8	17 ～ 18	道路上で故障したトラックを修理点検するため、移動式クレーンでトラック車体後部をつり上げた状態で車体に下に入って作業していたところ、つり上げに使用していた繊維ベルトのアイが切断し、被災者に車体が落下した。	11701	4	1～9
2005	12	13 ～ 14	解体したH鋼を返納するため、トラックに積込み作業中、荷崩れしたH鋼が落下し、被災者がその下敷きとなった。	30106	4	1～9
2005	8	15 ～ 16	木造新築工事現場において移動式クレーンで複数の木製板パネルをつり上げ、建物2階に下ろす作業をしていたところ、板パネルが玉掛け用具のスリングベルトから抜け落ち、下で作業していた被災者ら2人に激突した。	30202	4	1～9
2005	3	14 ～ 15	雨水浸透施設の設置工事において、コンクリート製の円筒形のつり荷をドラグ・ショベルで下ろそうとしたところ、掘削底で待機していた被災者がつり荷に手をかけた際、手をかけた側のハッカーが外れたため、つり荷が振れ、掘削側壁とつり荷との間に挟まれた。	30106	4	10～ 29
2005	4	14 ～ 15	変圧器用タンクカバーの溶接作業に際し、設置位置の台を修正するため、カバー（重さ3.5トン）を天井クレーンでつり上げたところ、ワイヤロープ（径9.3mm）が破断し、当該カバーが倒れ、その下敷きとなった。	11209	4	10～ 29
		8	トンネル用鋼板部材のセグメント（重さ3トン）の溶接かすの除去作業			10～

2005	6	～		11209	5	29
		9	を行っていたところ、倒れてきた当該セグメントに挟まれた。			
2005	12	～	トラックから床上操作式クレーンを使用し、鉄板8枚（重さ2.6トン）の荷降ろし作業をしていたところ、鉄板が玉掛け用具から外れて落下し被災者に激突した。	11209	4	10～ 29
2005	5	～	コンクリート製のトンネル部材（重さ2.5トン）を、ホイスト式天井クレーンでトラックに積み込もうとしていたとき、玉掛部のアイボルトが破断し、当該コンクリート製品が被災者に落下した。	10901	4	50～ 99
2005	3	～	床上操作式クレーンを用い、トラック荷台よりH型鋼材（重さ130kg）を降ろす作業中、鋼材をつっていた玉掛用クランプが外れて鋼材が落下し、クレーン操作者に激突した。	11209	4	1～9
2005	12	～	標識設置用コンクリート製土台の据付作業において、当該土台（重さ400kg）を移動式クレーン付ドラグ・ショベルでつり上げ、掘削した据付箇所を下ろそうとしたところ、玉掛用繊維ベルトから土台が滑り落ち、当該据付箇所内にいた被災者が土台と掘削壁面との間に挟まれた。	30106	6	10～ 29
2005	6	～	小型移動式クレーンを使用して型枠（重さ2.3トン）をつり上げ、トラック荷台に載せる直前に型枠が重みで外れ、荷台横にいた被災者が下敷きとなった。	40301	4	10～ 29
2005	4	～	レール（重さ300kg）を天井クレーンによりつり上げ、床上1mまで巻き下げたところ、クランプよりレールが外れ、運転操作していた被災者に落下した。	11209	4	30～ 49
2004	6	～	墓石を移動式クレーンでつっていたところ、玉掛け用繊維ベルトが切断したため墓石が落下し、被災者が墓石の下敷きとなった。	10909	4	1～9
		9	住宅新築工事現場において、基礎工事に使用する鉄筋（50本、300kg）をドラグ・ショベルのアームの先端部に取り付けられてい			

2004	8	～	るフックに玉掛けを行い、つり上げていたところ、玉掛けに使用して	30202	4	1～9
		10	いたワイヤロープが切断し、つり荷を支えていた被災者に鉄筋が激突			
			した。			
2004	9	～	引越作業において、移動式クレーンで搬送作業専用つり具に荷物のソ	40301	1	30～
		15	ファーを積み、被災者が一緒に搭乗し、ソファーが倒れ落下しないよ			49
		16	うに手で押さえた状態で2階ベランダから引越先で隣接するマンション			
			の3階ベランダへつり上げ運ぼうと移動させたとき、バランスを崩して			
			ソファーとともに約7mの高さから地面に墜落した。			
2004	4	～	つり上げ荷重2.8tのホイスト式天井クレーンを用いて、円柱状の鋼材計	11009	4	1～9
		10	7本（重量約2.3t）をつり上げた際、直径12mmの玉掛け用ワイヤロー			
		11	プ2本が切断し、被災者が落下した鋼材の下敷きになった。			
2004	4	～	橋桁架設のためのベント組立作業中、横になっていたベント（縦2m横	30105	4	10～
		13	2m高さ4m重さ1.5t）を25t移動式クレーンを用い、立てようとしたと			29
		14	ころ、玉掛けに使用していたスイベルフックが外れ、被災者にベント			
			が落下した。			
2004	1	～	民家裏の法面（のりめん）の立木を伐採する作業において、移動式ク	30199	1	1～9
		9	レーンでつるしたかごに人が搭乗し、立木を伐採していたところ、か			
		10	ごの吊り上げに使用していたベルトスリングがフックからはずれ、約			
			10mの高さから、かごと墜落した。			
2004	7	～	工場内で、平面仮組立されていた橋梁斜材を解体作業中、ボルトで緊	11209	4	10～
		10	結されていたH形鋼のボルトを地上に立って取外した後、H形鋼のバラ			29
		11	ンスが崩れ、被災者の上に落下し、被災者が下敷きとなった。			
2004	2	～	10tトラックに旋盤の付属装置（重量約1t）を積み込むため、付属装置	30302	4	1～9
		10	にシャフトを2本通し、玉掛作業中、シャフトから玉掛ワイヤロープが			
		11	外れ、付属装置が付属装置を押さえていた被災者の上に倒れた。			
2004	8	～	トラック荷台に積載したALC板（寸法：	30201	4	10～
		9	4300×600×120mm、180kg）6枚を専用玉掛用具を使用して移動式ク			
			レーンでつり上げ2階床に荷上げしようとしたところ、シャックルの1			

		10	つのねじが抜け落ち、つり荷であるALC板が約3.5mの高さから落下し、被災者に激突した。			29
2004	2	14 ～ 15	止水壁として使用していたシートパイルの引抜き作業中、シートパイルにクランプ（1個）を付け、移動式クレーンで抜き、地上に下ろそうとしたところ、クランプが外れてシートパイルが落下し、近くにいた被災者に激突した。	30199	4	10～ 29
2004	12	9 ～ 10	工場内で鋼材の片付け作業を行うため、鉄製ラックに積まれた角パイプをラックごと天井クレーンでつり上げ、移動し90度荷物を旋回させたところ、角パイプが長手方向に崩れ、ラックもろとも玉掛けチェーンからはずれて落ち、荷の横で補助をしていた被災者が下敷きとなった。	11209	4	10～ 29
2004	3	11 ～ 12	薬品循環タンクの据付け作業中、チェーンブロックを取り付けるためのはしごを地上で支えていたところ、タンクをつっていたシャックルが外れ、タンクの下方にいた被災者にタンクが落下し、激突した。	30302	4	1～9
2004	6	8 ～ 9	PC杭をトレーラーから荷卸するため玉掛を行い、また移動式クレーンオペレータが巻き上げを開始した。しかし、玉掛したものは別のPC杭が荷台から転げ落ちそうになったため、被災者は危険を感じ荷台から飛び降りたが、当該PC杭は荷台から落下、被災者を直撃した。	40301	4	100 ～ 299
2004	8	16 ～ 17	建設工場のストックヤードで、資材整理をするために小型移動式クレーンを用いて足場用鋼板21枚に玉掛けワイヤーを一本掛けし、地上から約1.2mの高さにつり上げて約6m移動したところで、玉掛けワイヤーが切断、荷を介添えしてクレーンを誘導していた被災者につり荷が激突した。	30209	4	10～ 29
2004	5	8 ～ 9	木造2階建て住宅建設工事現場で、2階の床を敷くために準備してあったコンパネ（約800kg）を移動式クレーンを用いて、移動させるためつり上げたところ、高さ4m位のところで荷崩れ、落下し、近くにいた被災者の上に落ちた。	30202	4	1～9

2004	6	15 ～ 16	橋型クレーンで、つりクランプを用いH型鋼をつり上げ移動中、クランプがはずれ落下したH型鋼の下敷きとなった。	11209	4	10～ 29
2004	11	13 ～ 14	ガードレール部材をトレーラーに積み込むため、これをホイールクレーンで2mほどつり上げたところ、当該部材が落下、その下敷きとなった。	30106	4	50～ 99
2004	4	0 ～ 1	敷鉄板（縦170cm×横302cm×厚さ2cm、重量750kg）を5 tトラックの荷台に、小型移動式クレーン（つり上げ荷重2.93 t）で、つり上げようと、つりクランプ1個を敷板に掛けたところ、敷鉄板が倒れ、同敷鉄板とトラックの車体に挟まれた。	40301	5	1～9
2004	11	9 ～ 10	バッテリー式フォークリフト（重量2.6t）を他の倉庫に移動させるため、車両積載形トラッククレーン（4t車、能力2.93t）を使用し、トラックの荷台に積み込む作業中、フォークリフトをつり上げ、荷台上に移動させようとしたところ、玉掛けしたワイヤロープが切断し、近くにいた作業者が落下したフォークリフトの下敷きとなった。	11701	4	1～9
2003	12	9 ～ 10	伐採した木材を機械集材装置を用いてトラックの荷台に積み込む作業で、ワイヤロープで束ねた木材束（740kg）を荷掛けし、新たな木材束を作るために主索の下の木材が積まれてあった個所で作業をしているときに、機械集材装置でつり上げていた木材束の荷つり索（径10mm）が切断して落下し、頭部を直撃された。	60201	4	10～ 29
2003	12	13 ～ 14	清掃工場で、粗大ごみ破碎施設に設けられたベルトコンベヤ（長さ約18m、幅約1m）の交換作業中に、頂上部分でベルトを支えていたワイヤが強度不足により切れたため、鉄製ベルトが滑り落ちて下敷きになった。	30302	4	10～ 29
2003	11	14 ～ 15	資材置場から建設現場に仮設トイレ（約800kg）を運搬する作業で、無線操作式の車両積載型トラッククレーン（8t車、2.9tつり）で積み込むため荷台上へ仮設トイレを移動したときに、つり具に使用したワイヤロープが切断して仮設トイレが落下し、下敷きとなった。	30202	4	30～ 49

2003	9	16 ～ 17	U形側溝敷設のため、路面を床掘した個所に鋼板（244cm×123cm、厚さ2.5cm）を積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.925t）でつり込んでいるときに、鋼板に設けた穴に通した「ピン」が抜け落ちたため鋼板が倒れてきた。	30106	4	10～ 29
2003	8	13 ～ 14	鉄骨の柱（長さ約7m、質量約2t）を2.8tの天井クレーンでつるため、柱にあけられた穴にシャックルを取り付けて長さ54cmの玉掛けワイヤロープを通し、その両端を天井クレーンのフックにかけてつり上げたときに、玉掛けワイヤロープが切断して柱が落下し下敷きになった。	11209	6	1～9
2003	8	10 ～ 11	トレーラーで搬入した鋼板を工場内の天井クレーン（つり上げ荷重10t）で荷下ろしする作業で、荷台上で鋼板7枚（質量11t）をハッカー2点つりで玉掛けして水平移動させたのち向きを変えるため回転させていたときに、鋼板がハッカーから外れて運転者の頭部に落下した。	11209	4	50～ 99
2003	8	9 ～ 10	牧場の飼料堆積場の新設工事において、ドラグ・ショベルのバケットのフックにワイヤロープで玉掛したL字型コンクリートブロック（質量1.8t）をつり上げて布設位置まで走行中に、コンクリートブロックに取付けていたアイボルトが強度不足により切断してコンクリートブロックが高さ約1mから落下して壁面部が折損して倒れたため、つり荷の状態を見ながら一緒に歩行していた者が下敷きになった。	30209	4	1～9
2003	7	10 ～ 11	倉庫内において、天井走行クレーン（つり上げ荷重2.8t）で型枠材料（木製パネル）の片付け作業を行っていたときに、つり上げた荷が落下して激突された。	30209	4	10～ 29
2003	7	7 ～ 8	構内の資材倉庫の鋼材整理のため、天井クレーン（2.8t）でコラム材2本（250mm×250mm、長さ13m）を高さ1.2mに積み上げた他のコラム材の上に移動させ、玉掛けワイヤロープを外すため片方のアイをフックから外して上昇させたがワイヤロープが抜けず、コラム材が動いて2本のうちの1本が落下してきて激突された。	11209	4	50～ 99
2003	5	18 ～	クレーンで縦つりをしていた金枠を、パレット上に横置きしようとしていたときに、金枠に掛けた玉掛け用具が外れたため金枠で頭部を直	11002	5	1～9

		19	撃された。			
2003	4	17 ～ 18	工場内において、建築資材用の鉄骨（H型鋼2本をくの字型に結合させたもの：質量310kg）を2.8tつりの天井クレーンでつり上げ、荷降ろしするために床へ接地させたときに、クランプがつり荷から外れて鉄骨が倒れてきてその下敷きになった。	11209	5	1～9
2003	3	15 ～ 16	工場内で、鉄製の水門の扉（約1.3t）の芯出しを行うため、つり上げ荷重5.043tの天井クレーンで扉をつり上げたときに、ベルトスリングが切れたためつり荷が落下し、作業台とつり荷との間にはさまれた。	11209	4	50～ 99
2003	3	14 ～ 15	工場内で建設用梁の型枠にコンクリートを打設する作業中、天井クレーンに専用のつり具でつり下げたコンクリートホッパーの片方の軸が寸動時につり具のフックから外れて落下し、型枠の上に乗出でて型枠内部のコンクリートの打設状況を確認していた者がホッパーと型枠との間に頭をはさまれた。	10901	4	30～ 49
2003	2	20 ～ 21	ダンプカーのタイヤの交換作業で、タイヤをホイールにセットしエアーを充填したがエアーが抜けているので、漏れ個所を確認するため2.9tのトラッククレーンでタイヤを1.5mつり上げ、下に入って漏れを調べるためハンマーでたたいていたときに、つり具が外れタイヤが落下した。	80109	4	1～9
2003	1	3 ～ 4	排水路工事において、床掘した個所にコンクリート製の集水ます（質量2t）をホイールクレーンでつっていたところ、集水ますが玉掛けロープから外れ落下して設置済みのボックスカルバートに当たり、その衝撃で割れた集水ますの破片に激突された。	30110	4	1～9
2003	1	12 ～ 13	道路路面補修工事において、車道と歩道の間にある溝（幅1m、深さ0.18m）の上に敷き鉄板（1.5m×3m、質量約800kg）を敷くため、ドラグ・ショベルで鉄板をつり上げて所定の位置に旋回し、鉄板の下端が地面に接地したとき、ワイヤが緩んで敷き鉄板のつり上げ用孔からフックが外れて誘導者の方に倒れ、逃げようとしたが溝に足を取られ	170201	4	10～ 29

			て転倒し鉄板の下敷きになった。			
2002	7	14 ～ 15	立坑（深さ約33m、直径4.5m）の掘削工事現場で、資材搬入用ケーシングパイプ（直径1.35m）内を4.9 tのクローラクレーンを使用してライナープレート9枚の荷降ろし作業を行っていたところ、ライナープレートを載せた搬器が吊り具から外れてケーシングパイプの一部とともに落下し、下に居た作業者に激突した。	30199	4	1～9
2002	12	8 ～ 9	木造住宅の建築工事において、運搬した荷（建築用木材を金属製ラックに入れたもの）をトラッククレーンで降ろしていたときに、荷が傾いたため荷とトラックの荷台との間に胸部を挟まれた。	40301	4	1～9
2002	12	19 ～ 20	圧延工場で、手直場に置いていた長尺物専用吊りビーム（高さ0.9m、長さ10m、質量約1 t）を天井クレーンのフックに掛けるため、クレーン運転士に巻下げの合図を行ったときに、吊りビームが倒れてきて吊りビームと後方にあったH形鋼（高さ0.8m）との間に挟まれた。	11001	5	30～ 49
2002	12	8 ～ 9	住宅新築工事において、トラックで運んだ床パネルを移動式クレーンで吊り上げたときに、床パネルが落下して付近にいた者を直撃した。	40301	4	10～ 29
2002	12	15 ～ 16	屋外に設置してあるホイスト式橋形クレーン(吊り上げ荷重2.8 t)で鉄骨部材の移動中に、クランプが外れたため地上でペンダントスイッチを操作していた者がクレーン脚部と鉄骨との間に頸部を挟まれた。	11209	4	10～ 29
2002	11	8 ～ 9	床上操作式天井クレーン（つり上げ荷重2.5 t）で工場で製作した建築部材（梁、質量約317 k g、長さ4.58m）をトレーラーに積み込む作業で、クランプで1点吊りして運搬中にバランスが崩れて運転者に当たったため、転倒してコンクリート床で頭部を打った。	11209	4	1～9
2002	10	13 ～ 14	廃車となった中古車をトラック積載型移動式クレーン（吊上荷重2.93 t）でトラック荷台へ積み込むため、ワイヤーロープ（直径10mm）を中古車に玉掛けして約1.2mまで吊上げたときに、掛けていたワイヤーロープが切断して中古車が落下し下敷きになった。	80109	4	1～9

2002	10	11 ～ 12	足場解体作業で、建柱材（幅900mm）18枚（計270kg）を電動ウィンチ（能力400kg）で荷卸して吊荷が地上約2mの高さまで下りてきたときに、フックに掛けていた玉掛ロープのシャックルが外れて地上に落下したため、下にいた者が吊荷の下敷きになった。	30201	4	1～9
2002	10	9 ～ 10	高速道路用防音壁支柱の溶接作業（長さ約8m、質量337.8kgのH鋼曲り材と長さ52cm、質量21kgのH鋼直材をアーク溶接する）で、H鋼の1辺を溶接した後に他の1辺を溶接するためH鋼の先端に横吊用クランプを取付け天井クレーンでH鋼を起こしたときに、クランプから外れたH鋼が落下して下敷きになった。	11209	4	10～ 29
2002	9	9 ～ 10	ホイス式天井走行クレーン（つり上げ荷重5t）の走行部の車輪が脱輪したので、移動式クレーン（つり上げ荷重4.9t）でガーダをつり上げようとしたところ、ガーダを吊っていたワイヤロープ（径10mm）が切れてガーダが落下し激突された。	10909	4	10～ 29
2002	7	0 ～ 1	マンション新築工事で、型枠資材の荷降し中に玉掛けに使用したチェーンが破断し、2.9tクレーンを無線操縦していた者の顔面に型枠資材（約200kg）が落下した。	30201	4	30～ 49
2002	5	16 ～ 17	工場内に置かれた中間製品であるロール紙（直径82cm、幅96cm、質量約500kg）をクレーンで吊り上げ移動させていたときに、ロール紙が落下してクレーンの操作者に激突した。	10602	6	50～ 99
2002	5	11 ～ 12	鋼板（2.4m×厚さ9mm、質量約230kg）の錆止めを手刷毛塗りしていて、片面を塗り終えたので2.8t天井クレーン（無線操作式）を使用して一点吊りで板材を反転しようとしていたときに、クランプが板材から外れ近くにいた者の頭部に当たった。	11209	4	1～9
2002	5	21 ～ 22	トラック荷台上で移動式クレーンを無線で操作しながらU字溝をつり上げていたところ、玉かけ用ワイヤロープがフックから外れU字溝が落ちてきて下敷きになった。	40301	4	10～ 29
			ユニットハウス（縦2.3m×横7.5m×高2.6m、重さ約1.5t）床の裏側に断熱材を取り付けるため、組立工場内にある天井クレーン（2.83			

2002	3	8 ～ 9	t) でハウス上部の四隅にある吊ピースにL字型の金具を取り付け玉掛けワイヤーで高さ約1.8mほど吊り上げ、その下で断熱材を取り付ける作業をしていたときに、吊ピースからL字型の金具が四隅とも外れてハウスが落下し下敷きとなった。	11209	4	1～9
2002	4	11 ～ 12	工場内の回収酸タンク新設工事現場において、トラックで搬入したタンクの屋根部材（ステンレス鋼板、長さ7.5m、質量300kg）10枚をトラッククレーン（つり上荷重：110 t）で吊り上げ仮置き場に運搬していたときに、荷がベルトスリングから外れ合図者の上に落下した。	30302	4	10～ 29
2002	3	11 ～ 12	民有地の外構工事において、敷設してあった鉄板（1540×3060×19mm、質量710kg）の中心に横吊り用クランプを取り付け、他端のワイヤーロープをドラグショベルのバケットに溶接しフックに掛けて一本吊りしていたところ、鉄板がクランプから外れて落下し鉄板の下敷きとなった。	30199	4	1～9
2002	3	13 ～ 14	トラッククレーンでトラックの荷台から内装材の石膏ボード（約500kg）を吊って旋回しながら運搬中、つり荷が単管足場の建地に接触したため玉掛け用具のベルトスリングから抜け落ち、2階ベランダ出入り口から出てきた者の頭部に激突した。	30201	4	1～9
2002	3	14 ～ 15	トラッククレーンの荷台から鉄板（質量約800kg）を降ろすため、フック付きワイヤロープで玉掛した鉄板をドラッグショベルで吊り、既に積んでいた鉄板（12枚）の上に降ろして積み重ねようとしたところ、鉄板に掛けていたフックが外れ付近で荷降ろしの合図を行っていた者が鉄板の下敷きとなった。	30199	4	10～ 29
2002	1	11 ～ 12	4 tトラックにはほ場整備工事用の塩ビ管（直径50cm、長さ430cm、質量150kg）12本を積んで現場に到着後、塩ビ管6本をワイヤロープで玉掛けして移動式クレーンで吊り上げたところ、塩ビ管3本が滑り落ち、その内の1本がトラックのボディで跳ね返って胸に激突した。	40301	4	30～ 49
		8	道路工事現場において、ドラグ・ショベルに装備されているフックに			

2002	1	～	ワイヤーロープを引っかけてスクリュロードを吊り上げ中、ロッド	30106	6	1～9
		9	が落下してきて胸腹部を強打した。			
2001	8	～	20 資材置場において、積載型トラッククレーン(2.93t)で、不要になった	11301	4	50～
		21	資材(H鋼材)をクランプ1個で吊り上げているときに、荷が落下してき			99
			21 て激突された。			
2001	12	～	16 道路拡幅工事現場で解体した防護柵用鋼矢板を仮置場所からバック	30106	4	1～9
		17	ホーで2本吊りで移動し、2本の玉掛け用ワイヤーロープのうち1本を外			
			したときに、バックホーの運転手が2本とも外したと勘違いしてバック			
			ホーを旋回したため鋼矢板が吊り上がってワイヤーロープが切れ、胸			
			に当たった。			
2001	11	～	8 資材置場で、足場用の建材をトラッククレーンで荷台に積込んでい	30309	4	10～
		9	るときに、玉掛けワイヤーの1本がフックから外れ、建材がトラックク			29
			レーンの操作者の上に落下した。			
2001	12	～	13 下水道工事現場において、マンホール用のコンクリート土管(直径約	30110	4	1～9
		14	1. 8m、質量約3. 8t)を吊上荷重25tのホイールクレーンで吊上げ立坑			
			上に移動していたとき、土管に取り付けていた玉掛け用のアイボルトが			
			切断したため土管が落下し、近くで作業していた者が下敷きになっ			
			た。			
2001	11	～	15 工場内で鉄骨材(総質量800kg、長さ9m)をトラックに積み込むため、	11209	5	1～9
		16	天井クレーン(定格荷重2. 8t)で支持していた鉄骨材を一時仮置きしよ			
			うと鉄骨材からクランプを外していたとき、玉掛け用チェーンが鉄骨			
			材から外れて鉄骨材が倒壊し、鉄骨材と脇にあったH鋼との間に腹部を			
			挟まれた。			
2001	11	～	9 900kgの鉄板を60m先に移動させるため、2. 9tのトラッククレーンで	30201	4	100
		10	鉄板をハッカーで吊り上げ荷台の端に立てた状態で載せたときにハッ			～
			カーが外れ、リモコン操作を行っていた者が下敷になった。			299
		13	吊り上げ荷重2. 8tの門型クレーン(床上操作式)でトラック荷台から			
			10cm角の鉄製角パイプ23本の荷卸しをしていたところ玉掛ワイヤロー			50～

2001	10	～ 14	プ(直径10mm)が切断し、クレーン操作を行っていた者が荷の下敷きになった。	80109	4	99
2001	10	～ 11	石と土砂を分離する「とおし」と呼ぶ設備を改修するため、ドラグショベル(バケット容量1. 2?)のバケットにワイヤロープを掛け鋼棒(質量950kg、長さ6m)を吊って作業をしていたときに、鋼棒を吊っていたワイヤロープが切断したため鋼棒が落下し設備の下方にいた者に激突した。	20201	4	10～ 29
2001	10	～ 17	ドラグショベルのバケット(容量1. 3?)に付いているフックで鋼製ホッパー(約2t)を吊り上げ受け台に据える作業中に、玉掛用ワイヤロープが切断し落下したホッパーが受け台上で補助作業をしていた者に激突した。	20209	4	100 ～ 299
2001	8	～ 18	排ガス処理設備の建設工事において、焼却炉架台上で2次焼却室上部ダクトサポート用柱(質量83・8kg)を取り付けるため、柱の先端部にクランプを付けて移動式クレーンで仮置場から移動させていたとき、柱のベースプレートが焼却炉上部の梁に引っかかったためクランプが外れて柱が激突した。	30209	4	1～9
2001	9	～ 14	コンクリート橋桁用型枠(約1t)を門型クレーンで吊り上げて走行中、玉掛用ワイヤロープが切断して型枠が落下し、下に居た者に激突した。	30105	4	100 ～ 299
2001	8	～ 9	製品(ステンレス製、重さ約380kgの板状の物)をシャコ万力で2箇所固定し、繊維ベルトスリングを介して2. 8t吊の天井クレーンで移動中にシャコ万力が外れて吊り荷が落下したため吊り荷を支えていた者が逃げきれずに吊り荷とともに転倒し吊り荷に挟まれた。	11209	2	10～ 29
2001	8	～ 15	資材加工場で、鋼管(質量約280kg)を吊り上げ荷重10. 3tの片脚橋形クレーンで運搬するため、鋼管の片側にハッカーを掛け、もう一方にもハッカーを掛けようとしたときに鋼管が落下し激突した。	80409	4	10～ 29
		9	荷(アルミサッシ約500kg)を天井クレーン(テルハ1t)で運搬中にベルト			30～

2001	7	～ 10	スリングが切断し、下で作業をしていた者に荷が激突した。	11209	4	49
2001	6	～ 18	資材置場において、11tトラックの荷台から4tトラックの荷台に長さ2mの単管パイプの3束を移動させるため、玉掛け用ワイヤーロープ2本で玉掛けしトラックの吊り上荷重2.93tのクレーンで吊り上げたところ、単管パイプが玉掛けワイヤーから滑り落ち荷台上でリモコンの操作をしていた者の上に落下しした。	40301	4	30～ 49
2001	6	～ 14	倉庫内でドラグショベルのアタッチメント交換作業において、ドラグショベルからアタッチメントの「アイアンフォーク」(約350kg)を取り外し、それを倉庫隅に仮置きするためクレーンで移動中に「アイアンフォーク」が落下し下敷になった。	80409	4	1～9
2001	3	～ 16	クレーン船に積まれていた鉄棒3本(重さ合計8t)を船のクレーンでトラックに荷上げ作業中、トラックの荷台上で玉外し作業を終了しクレーンの運転手に巻上げの合図をして巻き上げていたところ、玉掛け用ワイヤーロープが鉄棒(3段目のうち2段目)の爪にかかったため最上段の鉄棒(2t)が滑り落ちたので荷台上から飛びおりたが下敷になった。	40301	6	30～ 49
2001	3	～ 17	工場で浴場用ろ過タンクとなる台座(約190kg)の溶接中に、表面の溶接を終え裏面の溶接を行うため天井クレーン(2.8t)で吊り上げていたときに、麻の吊り上げロープが切れて台座が落下し、頭部を強打された。	11209	4	1～9
2001	3	～ 17	農業用水の送水管布設工事において、当日の掘削作業が終了したので転落防止のため矢板と矢板の間に蓋をしようとドラグショベルで鉄板(重量約0.3t)を吊り上げたところ、落下し矢板との間に挟まれた。	30199	7	10～ 29
2001	3	～ 16	緑地建設工事において、ドラグ・ショベルでコンクリート製の集水枡(重さ約500kg)を吊り上げたところ、玉掛け用具の吊りチェーンが切断したため集水枡が落下し、その下にいた者の頭部に当たった。	30199	4	1～9
		15	電柱の新設工事において、既設の電柱建替に伴ない仮設した仮柱(長さ8m・質量90kg)を穴掘建柱車で建柱車に積載するために1本吊りでブー			

2001	3	～	ムを左旋回させて移動中に、下端が地面より2.5mの位置で突然玉掛ワイヤーロープから仮柱が抜け、真下で作業を行っていた者の頭部に仮柱が直撃した。	30301	4	1～9
2001	2	～	漁港より約20m沖合の水深約9mのところに仮置していたテトラポット(重量25t)を水中で玉掛けして旋回式浮きクレーンで引き上げる作業で、玉掛けワイヤーロープのかかり具合の確認をするためテトラポットに近づいたときにテトラポットの脚が折れてワイヤーロープが外れたため、倒れてきたテトラポットの下敷きになった。	30111	6	100 ～ 299
2001	2	～	ゴムロールの軸受け柱の間隔を変えるため、20tクレーン吊天秤、両フックチェーンに柱の頂部にあるアイボルトにエンドレススリングをとおして玉掛けしたが、座りが悪かったので、再度吊り上げて穴の中を掃除しているときにスリングがアイボルトから外れて柱が落下し、下敷きとなった。	10806	4	1000 ～ 9999
2001	2	～	ラフタークレーン(吊上荷重100t)を使用し、吊りクランプを使用して吊上げた鋼矢板(質量288kg)1枚を指定の箇所に鋼矢板の下部を接地し、吊りクランプ側も接地させようとしたときに吊りクランプから鋼矢板が外れ、下部接地点から吊りクランプ側接地点の方へ移動していた者が倒れてきた鋼矢板の下敷きになった。	30107	4	10～ 29
2001	1	～	運搬船のハッチから原木丸太の荷降ろし作業を行おうとしたところ、船の揚貨装置がグラブバケットのためハッチ壁際の原木に玉掛できないので、バケットと原木端部にワイヤーをかけてハッチ中央部に原木を引っ張り出そうとしたところ、原木に掛けたワイヤーが外れてハッチ奥の原木が転がってきて当たった。	50202	5	1～9
2001	1	～	LPGタンカーの建造現場において、補助エンジン台座(質量466kg)を船底から約4mの高さにある中段デッキに設置するため、ジブクレーンで台座を吊り上げ台座に取り付けていた介錯ロープを引っ張ってデッキに引き込もうとしたところ、玉掛ワイヤーロープが外れて台座とともに船底へ転落し、台座の下敷きになった。	11501	1	1～9

2000	12	11 ～ 12	フローチングクレーン(吊り上げ荷重25t)で、海中に仮置した被覆石(重量約1t)をチェーンで玉掛けして吊り上げ所定の箇所(水深7m)に敷設する作業中に、吊っていた被覆石がチェーンから外れ、海中で作業していた者の上に落下した。	30111	4	10～ 29
2000	12	10 ～ 11	仮り組みされた移載機(質量450kg)を梱包するため、同僚と2人でホイスト式天井クレーン(吊上げ荷重2.8t)で相吊りで横行移動していたときに、荷を吊っていたベルトスリングが荷から外れたため、落下してきた荷に頭部を直撃された。	50101	4	10～ 29
2000	4	10 ～ 11	採石場において鉄板をクローラ式ドラグショベルで吊り上げ、10tトラックに積み込む作業で、トラック荷台上で誘導をしていたところ、荷を吊っていたワイヤーロープが切断したためトラック荷台の横のあたりと鉄板との間に挟まった。	20201	4	1～9
2000	3	5 ～ 6	積載型トラッククレーンの荷台に積まれた解体済みのユニットハウス(重量1.5t)を工場内の橋型クレーン(定格2.8t)で荷卸作業中に、吊っていたユニットハウスが落下し、荷卸済みのユニットハウスとの間に挟まれた。	30203	4	1～9
2000	2	8 ～ 9	床上操作式クレーン(吊り上げ荷重2.9t)で、仮組定盤から本溶接定盤に消音機架台(重量約700kg)を移動させているときに、玉掛け方法が悪かったため荷が落下し、その下敷きになった。	11501	6	30～ 49
2000	12	11 ～ 12	廃車になった自動車からエンジン等の部品の取り外すため、小型移動式クレーン(吊り上げ荷重2.93t)で吊り上げてその下部で作業を行っていたところ、吊り上げに使用していたベルトスリングが切断して廃車が落下し、その下敷きになった。	11701	4	1～9
2000	1	16 ～ 17	砂防えん堤築造工事において、3本の繊維ベルトで玉掛けした重量2.4tのドラグショベルを50tの移動式クレーンえん堤の堤頂部へ運んだところ、ドラグショベルを降ろす場所に鍬があったので取り除くためドラグショベルの下に入ったときに、3本の繊維ベルトのうち1本が	30108	4	10～ 29

			切れてドラグショベルが落下し下敷になった。			
2000	7	15 ～ 16	共同溝整備工事において、鉄板(質量800kg)をバックホーでトラックに積み込んでいるときに、玉掛け用具の吊り荷側のフックから鉄板が外れて落下し、トラックの傍で交通整理をしていた者が下敷きになった。	170201	4	10～ 29
2000	7	10 ～ 11	圧延加工の終了した鋼板コイル(約1.3t)を5tホイスト式天井クレーンで一時保管場所へ移動させて約30cm幅のところに降ろす際に、吊っていたコイルが先に置かれていたコイルに乗り上げて滑り落ちると同時に台付けワイヤーが切れたため、咄嗟に避難しようとして転倒し後頭部を強打した。	11209	2	1～9
2000	10	13 ～ 14	材料試験機械(質量約560kg)を搬出するため、作業場内の天井クレーン(定格荷重2.8t)で荷を吊り、横向きにして台車に乗せるために合図者が荷の下に入ったときに、上側のナイロンスリングがフックより外れて荷が落下し、下敷きになった。	40301	4	30～ 49
2000	12	9 ～ 10	工場内で住宅用パネル(重さ約100kg)をテルハ(つり上げ荷重500kg)で吊り上げて仕上げ作業を行っていたところ、玉掛け用ロープ(合成樹脂製)がクレーンのフックから外れたため、倒れてきたパネルで頭部を打たれた。	10409	5	1～9
2000	4	11 ～ 12	加工製作した質量0.4トンの鉄骨柱の中央部に鋼材専用吊クランプを掛け1点2本づりをし、2.8t天井クレーンでトラックに積み込もうとしたところ、クランプが鋼材から外れて近くにいたクレーンの操作者に当たった。	11209	6	1～9
2000	8	9 ～ 10	50tクローラクレーンで長さ14.4m重量約1.95tのH鋼を一本吊りで移動しているときに、玉掛けワイヤーが切れH鋼が落下し、落下し倒れた時にH鋼の先端が付近を走行していたブルドーザーの運転席を直撃した。	30199	4	30～ 49
		9	工場内で製作中の鉄板製架台(重量約1.2t)を方向転換させるため、天井クレーンを使用し吊り上げその状態を確認するため荷に近づいたと			10～

2000	8	～ 10	きに玉掛用ワイヤーロープが切れ、落下してきた荷が頭部に当たった。	11209	4	29
2000	6	～ 14	推進工事の発進立坑において、マシンの架台としていたH鋼を立坑内より撤去のため、立坑上まで橋型クレーンで吊り上げ走行させたところ、吊りクランプからH鋼が外れて立坑内へ落下し、立坑内の土止め支保工の切梁等にあたったため仮置されていた腹起こしがブラケットより外れ、立坑内にいた者に当たった。	30110	4	50～ 99
2000	5	～ 15	工場内で組み立てた射出成型機(重さ約19t)をクレーン(20t)で巻き上げ、3mの高さで運搬しているときに玉掛が外れ、製品の敷板を取るために吊り荷の下に入っていた者を直撃した。	11301	4	1000 ～ 9999
2000	10	～ 10	ショッピングプラザ新築工事で、鋼製階段をクランプ2本で斜め吊りをするため重心を外して玉掛し、地切りしたところ階段がクランプから滑ったように抜け、階段に並行して歩いていた者の上に落下した。	30201	4	10～ 29
2000	1	～ 16	集水枴(重さ100kg)の据え付けで、ドラグショベルにワイヤーをかけ、枴の両側のリングに引っかけて吊り下げ定位置に降ろす作業中にワイヤーの片側がリングから外れて落下し、下にいた者に当たった。	30106	4	1～9
2000	8	～ 7	移動式クレーンでH鋼(長さ4m、重さ600kg)を1本吊りしているときに、クランプがはずれてH鋼が落下し下敷になった。	30201	4	50～ 99
2000	2	～ 19	コンテナハウス(重量約500kg)を、トラッククレーン(2.9t)で吊り上げ、荷台に載せようと誘導していたところ、使用していた玉掛けワイヤーロープが切断し、下敷きになった。	30199	4	1～9
2000	10	～ 15	町道の歩道設置工事現場で、可変側溝(コンクリート製、重さ1.4t)をバックホウで吊り上げたところ、玉掛が外れて深さ1.4メートルの掘削溝に可変側溝が落下したため、中で作業をしていた者が下敷きとなった。	30106	4	30～ 49
			建築用鉄骨部材(長さ約10m、重さ約4t)にチェーン1本で玉掛けし、天			

2000	10	14 ～ 15	井クレーン(つり上げ荷重10. 2t)で吊上げた瞬間、チェーンが切断したため、荷振れ防止のために鉄骨部材に手を添えていた者が落下した鉄骨部材の下敷きになった。	11209	4	100 ～ 299
2000	5	10 ～ 11	鋼板(約1. 6t)1枚を4tトラックの荷台に積み込むため、ドラグショベルで2点吊りして荷台に降ろそうとしたときに、ワイヤーロープのアイ部分が2本とも切断したため、鋼板が荷台上に倒れ、その下敷きになった。	40301	4	10～ 29
1999	12	0 ～ 1	工事現場において、セメントを地上から屋上へ揚重する作業中、玉掛け方法が不備(木造パレットに単管パイプを2本、固定せずに差し込んだ状態)であったため荷のバランスが崩れ、地上の整理をしていた者の頭に荷が落下した。	30203	4	10～ 29
1999	12	9 ～ 10	エレベーターのガイドレール(重量約242kg)を移動式クレーンで設置する作業で、補助フックと主フックを併用して吊り上げ、荷を垂直にするために補助フックの方を上へ上げたときにクランプが外れ、近くで検品作業をしていた者の頭部に当たった。	30209	4	10～ 29
1999	12	14 ～ 15	プラント解体工程において、解体した約300kgのプラントの部材を移動式クレーンでトラックに積み込む作業中、1本吊りしたところ荷が揺れトラックに当たりそうになったので、揺れを押さえようと吊り荷に近づいたときに玉掛けワイヤーが吊り具から外れ、吊り荷と地面との間に挟まれた。	30201	5	1～9
1999	12	13 ～ 14	住宅用木材を玉掛けして防腐液槽へ漬けるため天井クレーン(2. 8t吊り)で吊り上げていたときに、槽の隣に積んである防腐処理済の木材に吊荷が当たって、フックから玉掛けワイヤロープが外れたため、吊荷(約800kg)が落下して下敷きになった。	10401	4	1～9
1999	10	13 ～ 14	下水道マンホールの据え付けのため、車両系建設機械でマンホール(重量1. 36t)を吊り上げ国道脇に仮置きしようとしたときに玉掛け用ワイヤーロープ切断し、マンホールが落下したため、掘削した溝の中で床	30110	4	1～9

			ならしを行っていた者に激突した。			
1999	10	8 ～ 9	定盤にて鋼板を半分に切断し、マーキングするために1枚の鋼板にクランプを掛けクレーンで吊った状態(片側は定盤についている)で、もう片方の鋼板に乗り2枚の鋼板の角を合わせていたときに、突然クランプが外れ、鋼板の下敷きとなった。	11501	5	10～ 29
1999	9	16 ～ 17	鉄板4枚(重量約1.7t)片端に吊りクランプ(基本使用荷重0.75トン)1個をかませ、定格荷重2.8トンの天井クレーンで約3.8メートル吊り上げて引きずったところ、クランプから鉄板が外れて落下し、その下を通行していた者に当たった。	11209	4	1～9
1999	9	16 ～ 17	自販機を鋼製枠から移動式クレーン(吊上荷重2.93t)を使用して回収するに際し、ベルトスリングで1本吊りして仮置き後、ベルトスリングを付け替えるため自販機を引っ張り出していたところ、ベルトスリングが外れて自販機が倒れてきて胸部大動脈が破裂した。	30302	6	1～9
1999	8	13 ～ 14	道路新設工事に伴うU字溝据付作業において、仮置場から敷設場所までU字溝を運ぶためドラグショベルでダンプトラックに積込むときに、旋回方向の死角付近に作業者を発見し旋回を急停止させたところ、専用吊具で吊っていたU字溝がはずれ作業者が下敷きとなった。	30199	4	30～ 49
1999	9	17 ～ 18	トンネル築造工事において、地下約30mの立坑内で清掃した土砂をズリ鋼車に積み込み、吊上げ荷重4.95tの天井クレーンで吊上げ中に、鋼車が落下した。	30199	4	100 ～ 299
1999	6	14 ～ 15	トラックの荷台に高所作業車を積載して、別の営業所まで運んだ後、リースヤードに設置してある橋型クレーンを使用して高所作業車を荷台から降ろそうとしたところ、フックからワイヤロープが外れたために倒れてきた高所作業車の下敷きになった。	80409	6	1～9
1999	6	8 ～ 9	吊り上げ荷重5tの床上操作式天井クレーンでH鋼をクランプ一本で吊り移動していたところ、吊りクランプからH鋼がはずれ、その下敷きになった。	11209	4	10～ 29

1999	6	9 ～ 10	基礎工事の資材置場において、H鋼材2本をクレーンで吊り上げトラックの荷台に移す作業を行っていたところ、鋼材を吊っていたワイヤーが切れて落下し、その下敷になった。	30199	6	10～ 29
1999	4	13 ～ 14	鋼矢板をサイレントパイラーを用いて引きぬく作業で、移動式クレーンで鋼矢板を吊り上げたところ、鋼矢板が吊りクランプから外れ、近くにいた者を直撃した。	30107	4	10～ 29
1999	1	16 ～ 17	工場の床材に使用されるH鋼に付けられた鉄板の一面を塗装し、その後、裏面を塗装するため床上操作式3トンクレーンを用いてH鋼を裏返そうとしたときに、鉄板がシャックルから外れ、その下敷きになった。	11209	6	1～9
1999	5	11 ～ 12	25トン移動式クレーンで、長さ5.5メートル、重さ1.1トンのH鋼を高さ2メートルに持ち上げた状態でH鋼の向きを変えようと静止したときに、一方の吊りクランプがはずれ、続いてもう片方のつりクランプがはずれて落下し、下敷になった。	30201	4	1～9
1999	5	9 ～ 10	木造家屋建築工事現場で、移動式クレーンで間仕切用木製パネル等を荷台から降ろす作業中に、吊荷が玉掛用具から外れて落下して吊荷の下でガス配管作業を行っていた者に激突した。	30202	4	50～ 99
1999	4	8 ～ 9	資材置場でテルハを用いて鉄板3枚をトラックに積み込む作業で、3枚目の鉄板を吊り上げたときに、玉掛け用ワイヤーロープが切断したため、鉄板が落下して下敷になった。	30199	6	10～ 29
1999	3	10 ～ 11	4トントラックで資材を建設現場に運び、ホイルクレーン(吊り上げ荷重10トン)で荷を桁上へ荷卸し中に地上高さ約8.7mで荷崩れが起り、吊荷がトラックの荷台に落下し付近で待機していた者の頭部に激突した。	40301	4	1～9
1999	3	13 ～ 14	整備工場でコンクリート吹き付け機の整備を行っていて、吊り上げ荷重2.8tのテルハで吹き付け機をベルトスリング1本で斜めに吊り上げ、機械の下に腰を曲げて入っていたときにベルトスリングのアイ部が切れ、機械の下敷きになった。	11702	7	10～ 29

1999	1	16 ～ 17	ドラグショベルで敷鋼板を吊り上げ、積載型トラッククレーン（4t）の荷台へ積み込む作業のため後部で玉掛の補助をしていたときに、敷鋼板が荷台に載せた際のショックで玉掛用具から外れ荷台から地上へ落下して、頭部に激突した。	30106	4	100 ～ 299
1999	1	9 ～ 10	屋外製品置場でコンクリート製のビル外壁板をブラシで水洗いするため、10t橋型クレーンで吊っていたときにフックを掛けたボルトが破断し、板が倒れてその下敷きになった。	10901	4	30～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_29.html